



大多喜町アーバンスポーツ推進計画

2025年3月

目次

1.	計画の位置づけ・目的	P.2
1-1.	推進計画の策定目的	
1-2.	国・県のスポーツ振興の動向	
1-3.	上位計画を踏まえた位置づけ	
2.	策定方法	P.16
2-1.	仮説検証型の策定プロセス	
3.	計画内容の検討	P.20
3-1.	調査設計	
3-2.	外部環境調査 市場調査結果	
3-3.	内部環境調査 自町資源調査結果 協議会実施結果	

4.	大多喜町アーバンスポーツ推進計画の方針	P.38
4-1.	ビジョンの策定	
4-2.	推進計画の全体像	
5.	施策内容	P.45
5-1.	施策一覧	
5-2.	各施策の詳細	
6.	2025年度以降の取り組みについて	P.57
6-1.	今後の計画・展望	

- 1. 計画の位置づけ・目的**
 - 1-1. 推進計画の策定目的**
 - 1-2. 国・県のスポーツ振興の動向**
 - 1-3. 上位計画を踏まえた位置づけ**

1. 計画の位置づけ・目的

1-1. 推進計画の策定目的

1-2. 国・県のスポーツ振興の動向

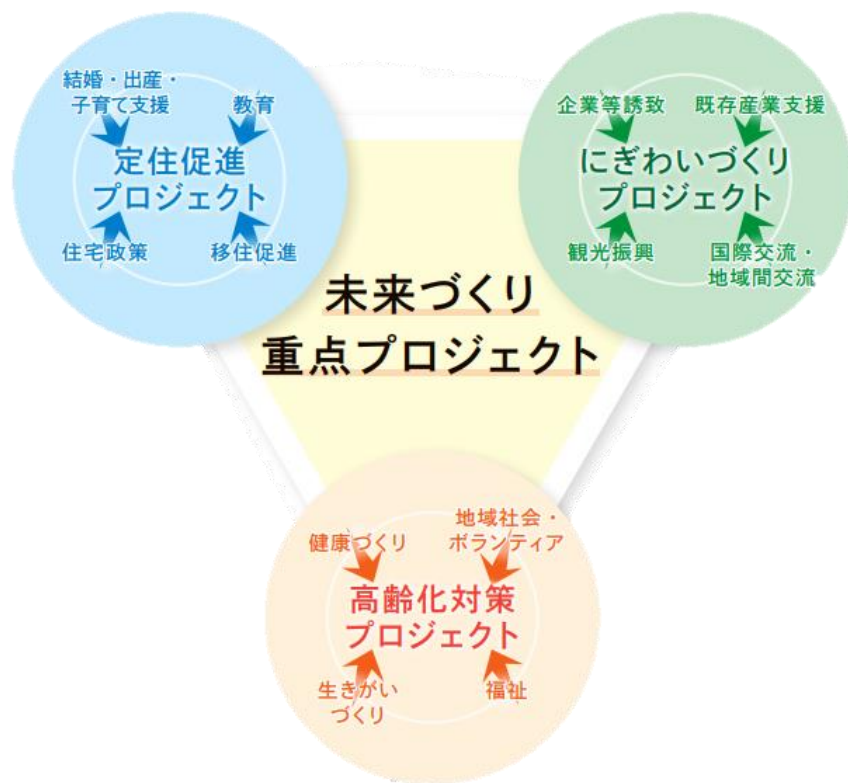
1-3. 上位計画を踏まえた位置づけ

大多喜町では、定住促進・にぎわいづくりにも係る「若者の転出超過」が喫緊の課題となっている中で、若者の呼び込めるコンテンツが必要となっています

現在の大多喜町の状況

大多喜町が目指す姿

- ✓ 本町では、大多喜町第3次総合計画にて、将来像「ひとまちみどり 未来に光り続けるふるさと 大多喜」を実現するために、重点プロジェクトを整理している



課題

- ✓ 人口減少、特に若者の転出超過が課題となっており、**20代の町民数は2014年 781人→2024年 462人に減少**している。また、人口戦略会議のレポート（2024年）では、**本町が消滅可能性自治体※に該当**している
- ✓ 町では歴史・文化・自然等の魅力ある観光資源を有する一方で、**若者に対する訴求力が弱く**、「若い世代を中心とした人口流出」についてさらなる対応が求められている

2023年・転入-転出の年代別人数

年代	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上
人数	5	14	-39	-17	-2	0	8

情報ソース：総務省統計局（<https://www.stat.go.jp/data/idou/index.html>）「住民基本台帳人口移動報告」

大多喜町の現在のポテンシャルを活かしつつ
若者を誘引するコンテンツとして期待されている
“アーバンスポーツ”を活用していく

アーバンスポーツは若者人気の高さと、他文化との親和性の高さを活かしたにぎわいづくりができる点が特徴で、若者の誘引力が高いスポーツです

アーバンスポーツとは

アーバン スポーツとは？

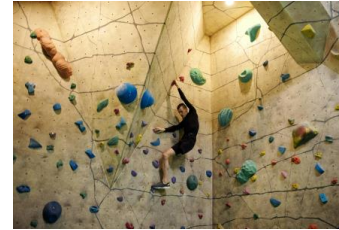
■「エクストリームスポーツ（アクロバティックな技が魅力の競技群）の中で都市での開催が可能なもの



スケートボード



BMX



クライミング



3x3バスケット

特長①：若者を中心に、人気拡大中

- 各アーバンスポーツの市場規模は拡大傾向
- 特に子供～若者から高い人気を誇り、世界で戦う10代の選手が多数存在

自転車競技の
入門的位置づけである
ストライダーの世界大会には
参加上限の約800名が出場
(2023年／国内)



情報ソース：STRIDER CUP 2024, <https://www.strider.jp/cup/osaka/race/>

特長②：他文化との高い親和性

- アーバンスポーツは、ストリートカルチャーの1つとして、音楽やファッションなどの他文化と共に発展

東京では2024年に「CHIMERA GAMES」を開催し、アーバンスポーツを軸としながら、音楽・アート・食等の様々なコンテンツと融合した総合エンタメイベントを開催



情報ソース：CHIMERA GAMES <https://games.chimera-union.com/>

大多喜町ではマイナースポーツ、特にプロチームが存在する3x3を通じたスポーツ振興が盛んに行われており、アーバンスポーツが盛り上がる土壌が形成されています

大多喜町におけるスポーツ活動状況

プロスポーツチームの活躍

- ✓ 2021年から、「プロスポーツ選手のデュアルキャリア開拓と大多喜町の活性化」をテーマに**6名の若者が移住**して、3x3のプロバスケットチーム「esDGz OTAKI. EXE」が活動開始
- ✓ 競技以外には農業に取り組んでおり、大多喜町の自然が持つ本来の力を引き出し、地域の発展に貢献



2023年は、ホームゲーム開催でラウンド優勝

田植・稲刈りから、命名や米袋のデザインまでを全て選手で実施した「籠米」を販売



本町で行われるスポーツイベント

- ✓ 本町のランドマークである大多喜城を舞台とした、OTAKI “SENGOKU” EXTREMESを実施しており、トレイルラン愛好者が多く来訪



大人だけでなく小学生も参加可

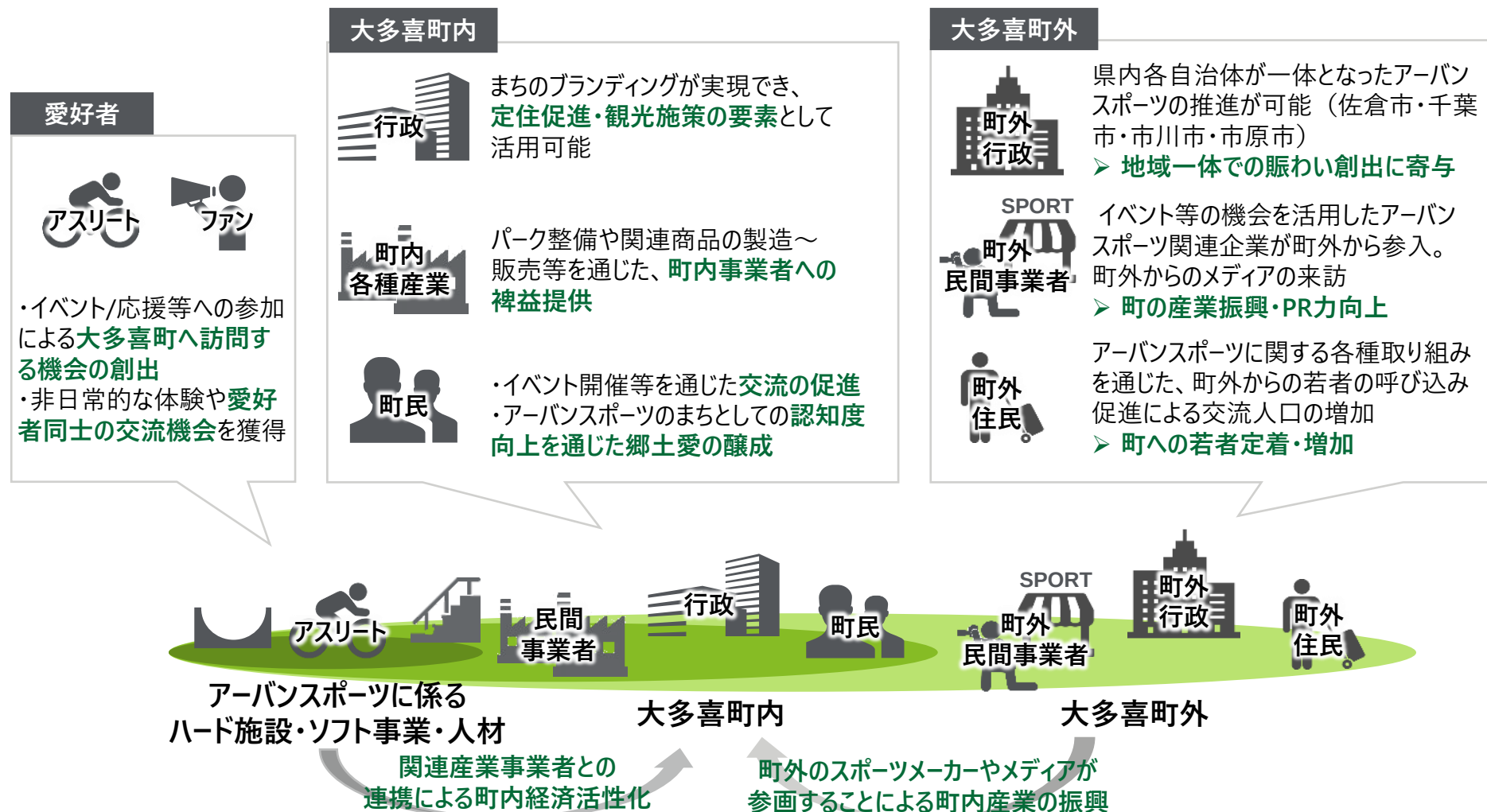
- ✓ また、左記の「esDGz OTAKI. EXE」がスクールや体験会等を定期的に行うことで、住民にスポーツを体験する機会を提供



バスケットスクールや、幼児の運動教室、学校体育の授業、高齢者の健康運動の指導を実施

大多喜町におけるアーバンスポーツの普及は、町内への裨益のみならず町外の事業者やアスリートの巻き込みを通じた賑わい創出や認知度向上、定住促進に寄与します

アーバンスポーツが大多喜町に与える価値



1. 計画の位置づけ・目的

1-1. 推進計画の策定目的

1-2. 国・県のスポーツ振興の動向

1-3. 上位計画を踏まえた位置づけ

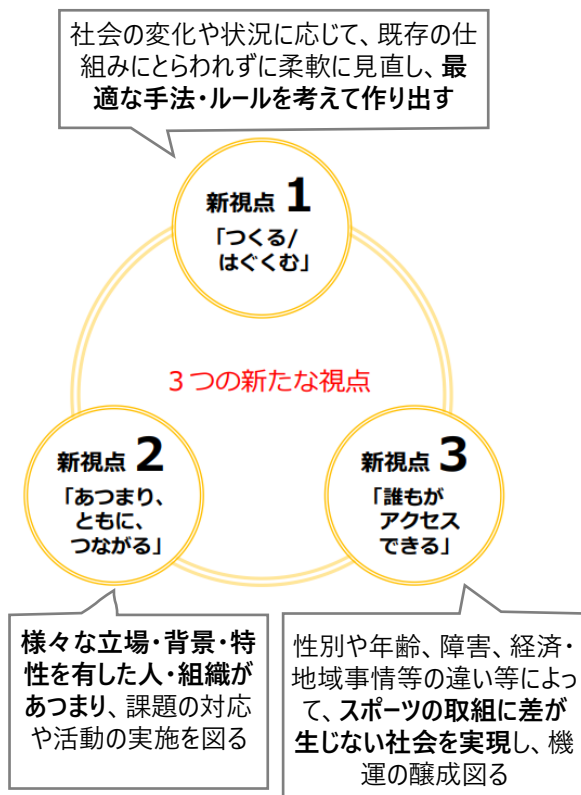
スポーツを通してより良い社会を実現するために、国としてはR4～R8年度にかけて3つの新たな視点を踏まえた施策実行を目指しています

国のスポーツ振興の動向

スポーツとは

「する」「みる」「ささえる」という様々な形での「自発的な」参画を通して、人々が感じる「楽しさ」や「喜び」に本質を持つもの

第3期スポーツ基本計画（R4～R8年度対象）にて新たに取り入れられた視点と具体的な施策



1. スポーツを「つくる / はぐくむ」

①多様な主体が参画できるスポーツの機会創出

⇒性別、年齢、障害の有無等に関係なく、多様な主体がスポーツを楽しむために、アーバンスポーツ等の新しいスポーツへの参画や誰もがひとしく参加できるスポーツの導入等

②自主性・自律性を養う指導ができるスポーツ指導者の育成

③スポーツ界におけるDXの導入

2. スポーツで「あつまり、ともに、つながる」

①スポーツを通じた共生社会の実現

⇒東京大会で初めて追加されたアーバンスポーツ等の競技を含め、難度の高いパフォーマンスに挑戦をした選手を対戦相手が称賛し合うような光景も話題となった

②スポーツ団体のガバナンス・経営力強化、関係団体等の連携・協力を通じた我が国のスポーツ体制の強化

③スポーツを通じた国際交流・協力

3. スポーツに「誰もがアクセスできる」

①地域において、住民の誰もが気軽にスポーツに親しめる「場づくり」等の機会の提供

②アスリート育成パスウェイの構築及びスポーツ医・科学、情報等による支援の充実

③本人が望まない理由でスポーツを途中で諦めることがないような継続的なアクセスの確保

具体的には教育や健康増進、地方創生等の政策分野の解決も見込める12施策を、スポーツ庁にてR6年度現在も推進中です

スポーツ庁がR4～8年度にかけて取り組む施策

スポーツ庁として、「東京大会のスポーツ・レガシーの継承・発展に向けて、特に重点的に取り組むべき施策」「新たな三つの視点」を支える具体的な施策」に掲げた施策も含めて、スポーツ庁として今後5年間に総合的かつ計画的に取り組む施策12項目を制定

多様な主体におけるスポーツの機会創出

地域や学校における子供・若者のスポーツ機会の充実と体力向上、体育の授業の充実、運動部活動改革の推進、女性・障害者・働く世代・子育て世代のスポーツ実施率の向上等

- 「広く国民一般に向けたスポーツを実施する機会の創出」として、性別、年齢、障害の有無等に関係なく、多様な主体がスポーツを楽しむためにアーバンスポーツ等の新しいスポーツへの参画や誰もがひとしく参加できるスポーツの導入等が具体施策に挙げられている



<参考事例>
千葉県では、アーバンスポーツの魅力を紹介するサイトページを作成
(<https://www.pref.chiba.lg.jp/shousupo/new-sports/urban/video.html> ,チーバくんと一緒にアーバンスポーツの魅力とマナーを知ろう！)

6 スポーツの成長産業化

スポーツによる地方創生、まちづくり

武道やアウトドアスポーツ等のスポーツツーリズムの更なる推進など、スポーツによる地方創生、まちづくりの創出の全国での加速化等

- スポーツによる地方創生においても重要な要素の一つである「スポーツツーリズムの更なる推進」の具体施策として、アーバンスポーツ、ワーケーション等の地域資源をいかした新たなコンテンツの開発や、DXの活用等新たな分野の開拓・チャレンジを積極的に推進することが具体施策に挙げられている

<参考事例>

埼玉県久喜市では、小学生から大人まで、様々な世代が集い、つながり、育っていくコミュニティを構築することを目指し、3人制バスケットボールを通じたまちづくり「3X3 KUKIプロジェクト」を実施

7

8 スポーツを通じた共生社会の実現

9 スポーツ団体のガバナンス改革・経営力強化

10 スポーツ推進のためのハード、ソフト、人材

11 スポーツを実施する者の安全・安心の確保

12 スポーツ・インテグリティの確保

2 スポーツ界におけるDXの推進

3 国際競技力の向上

4 スポーツの国際交流・協力

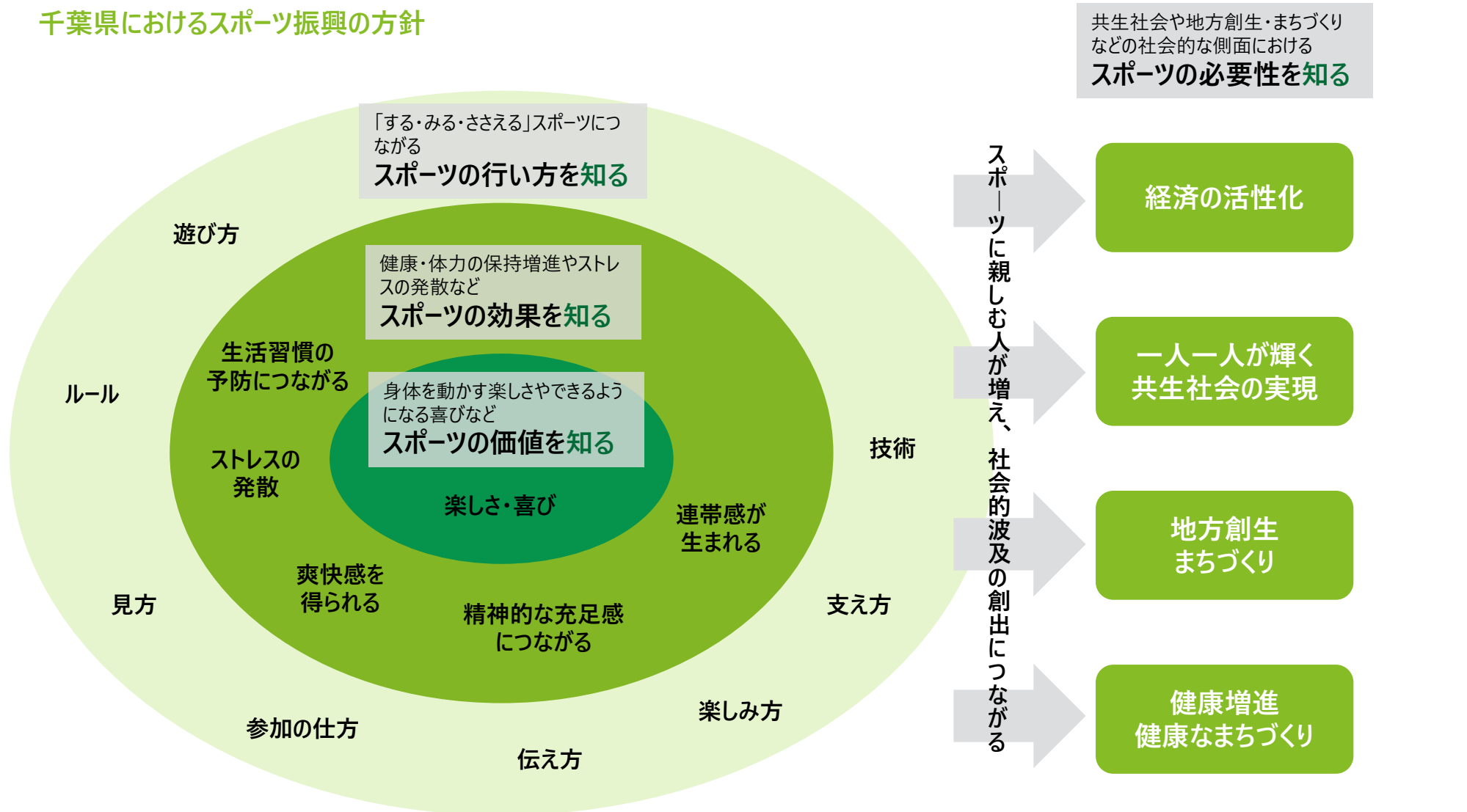
5 スポーツによる健康増進

健康増進に資するスポーツに関する研究の充実・調査研究成果の利用促進、医療・介護や企業・保険者との連携強化等

- ①と同様に、「広く国民一般に向けたスポーツを実施する機会の創出」が具体施策に挙げられている

千葉県では、全県民が「スポーツの意義や価値を理解する（＝知る）」状態を作ること
でスポーツに親しむ人が増え、社会的な波及効果が創出されることを期待しています

千葉県におけるスポーツ振興の方針



スポーツの価値・効果・行い方・必要性を知らせるために、県内では6つの主要施策を定め、互いに連携し合いながら推進しています

スポーツを知るために実施する施策

	期待効果
それぞれの施策や事業が連携し合うことで、県全体のスポーツ振興を推進 子どもの体育・スポーツ活動 ■ 子どもの体育・スポーツ活動の充実と体力の向上 ➢ 施策①幼児期における運動遊びの充実②学校体育活動の充実 ③児童生徒の体力の向上 ④スポーツライフの基盤となる運動部活動の充実と在り方の検討⑤心身の健全な発達を支える食育の推進	スポーツの効果を知る ➢ 子どもの体育・スポーツ活動が体力の向上につながる
スポーツの推進 ■ 人生を豊かにするスポーツの推進 ➢ 施策①ライフステージに応じたスポーツ習慣の定着と健康の増進②多様化するスポーツライフの充実・発展	スポーツの効果を知る ➢ 健康増進や豊かな生活につながる
パラスポーツの推進 ■ 誰もがともに楽しめるパラスポーツの推進 ➢ 施策①パラスポーツの推進②パラアスリートへの強化・支援の推進	スポーツの必要性を知る ➢ スポーツによる共生社会の実現につながる
スポーツ環境 ■ スポーツ環境の整備・充実 ➢ 施策①人材の育成 ②施設の整備と有効活用③誰もがスポーツに参加できる組織基盤の充実・発展	スポーツの行い方を知る ➢ スポーツがより身近により深く、より楽しく充実につながる
競技力の向上 ■ 競技力の向上とクリーンでフェアなスポーツの推進 ➢ 施策①選手の発掘・育成・強化及び指導者の養成・資質向上 ②競技力向上のための環境整備③スポーツ医・科学の積極的な活用④組織・調査等の充実⑤競技スポーツの充実及び好循環	スポーツの行い方を知る ➢ 「する・みる・ささえる」スポーツにつながる
スポーツによる地域づくり ■ スポーツの価値の発信とスポーツによる地域づくり ➢ 施策①アスリートと連携したスポーツの価値の発信②地域資源を生かしたスポーツライフの推進と千葉の魅力発信③オリンピック・パラリンピックのレガシーの継承・発展 ✓ あらゆる人がスポーツを楽しめるよう、ユニバーサルスポーツや、アーバンスポーツ等の「新たなスポーツ」について、周知・普及促進を図る	スポーツの必要性を知る ➢ 共生社会の実現、地方創生・まちづくりなどにつながる

1. 計画の位置づけ・目的

1-1. 推進計画の策定目的

1-2. 国・県のスポーツ振興の動向

1-3. 上位計画を踏まえた位置づけ

本町の将来像を実現させるため、大多喜町第3次総合計画では 「定住促進」「にぎわいづくり」「高齢化対策」を重点プロジェクトに据えています

本町で注力すべきプロジェクト

定住促進プロジェクト

教育

町内の高校・大学と連携をして 小中学校における教育の充実を図ります。

移住促進

本町へのＵＩＪターンを検討・実行する人に対し、様々な視点から支援を行います。

住宅政策

土地の有効利用に向けた取組を進めるとともに、良質な住宅や宅地の供給を促進します。

結婚・出産・子育て支援

住民の結婚促進を支援するとともに、出産や子育てをしやすい環境を整えます。

にぎわいづくりプロジェクト

既存産業支援

町内の農林業者や商工業者の更なる発展に向けた支援を充実させます。

国際交流・地域間交流

外国人観光客の増加を図るとともに、地域間交流の活性化を促進します。

観光振興

観光資源の充実や効果的な情報発信、受入体制の整備等により、観光振興を図ります。

企業等誘致

新たな雇用の受け皿創出や税収の維持・拡大を目指し、企業等の誘致を促進します。

高齢化対策プロジェクト

地域社会・ボランティア

地域コミュニティの再生・強化を図るとともに、ボランティア活動を促進します。

福祉

高齢者が住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らせるよう、福祉の充実を図ります。

生きがいづくり

生涯学習活動の促進や雇用機会の創出等により、高齢者の生きがいづくりを支援します。

健康づくり

高齢者の健康の維持・増進や医療体制の整備に努め、健康寿命の延伸を図ります。

将来像

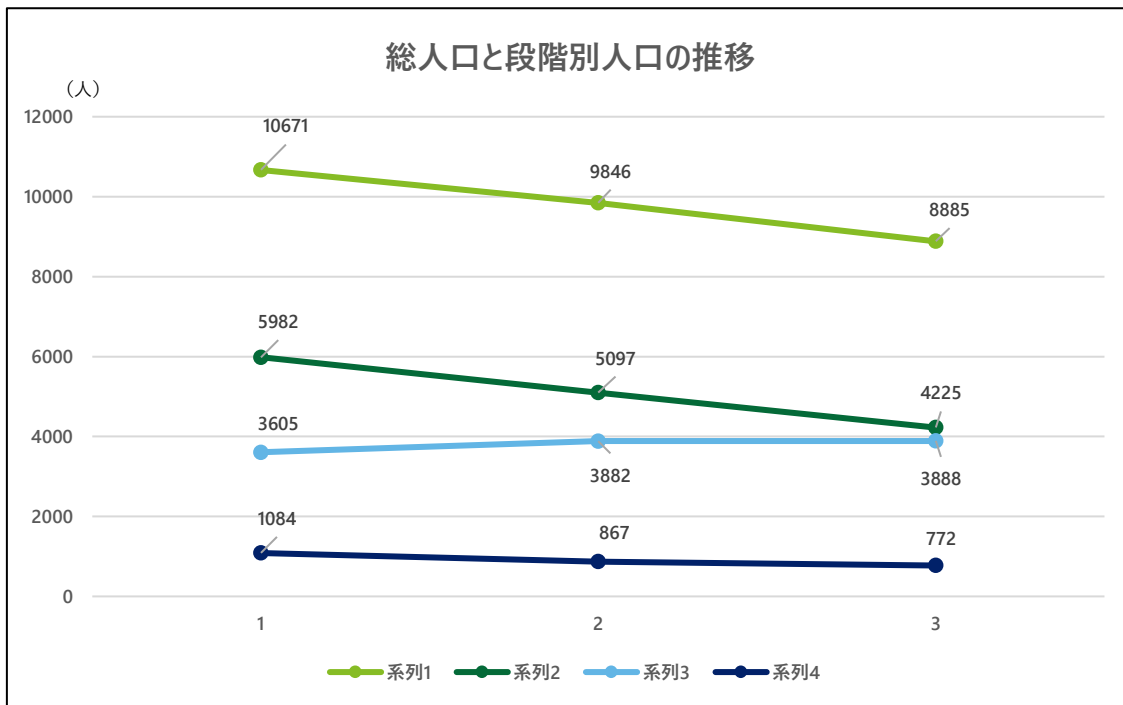
ひとまちみどり
未来に光り続けるふるさと 大多喜

人口減少著しい本町においては、今後の人口推移に係る「定住促進」「にぎわいづくり」に資する取り組みが求められており、本事業が立ち上がっています

本町の人口に関する現状と打ち手

総人口の推移と将来人口推計

- 総人口の推移と将来人口推計 本町の人口は、ピークであった昭和22(1947)年には 20,431 人
- その後、都市部への若年層の流出と出生率の低迷により減少傾向が続く
- 2015年以降の国立社会保障人口問題研究所の推計によれば、今後も本町の人口は減少が続く見通し



総人口

- 人口減少が続き、2040年には6,366人と2010年比で **40.3%減少**、2060年には4,056人と同**62.0%の減少**となる見通し

年少人口及び生産年齢人口

- 2060年まで一貫して減少する見通し

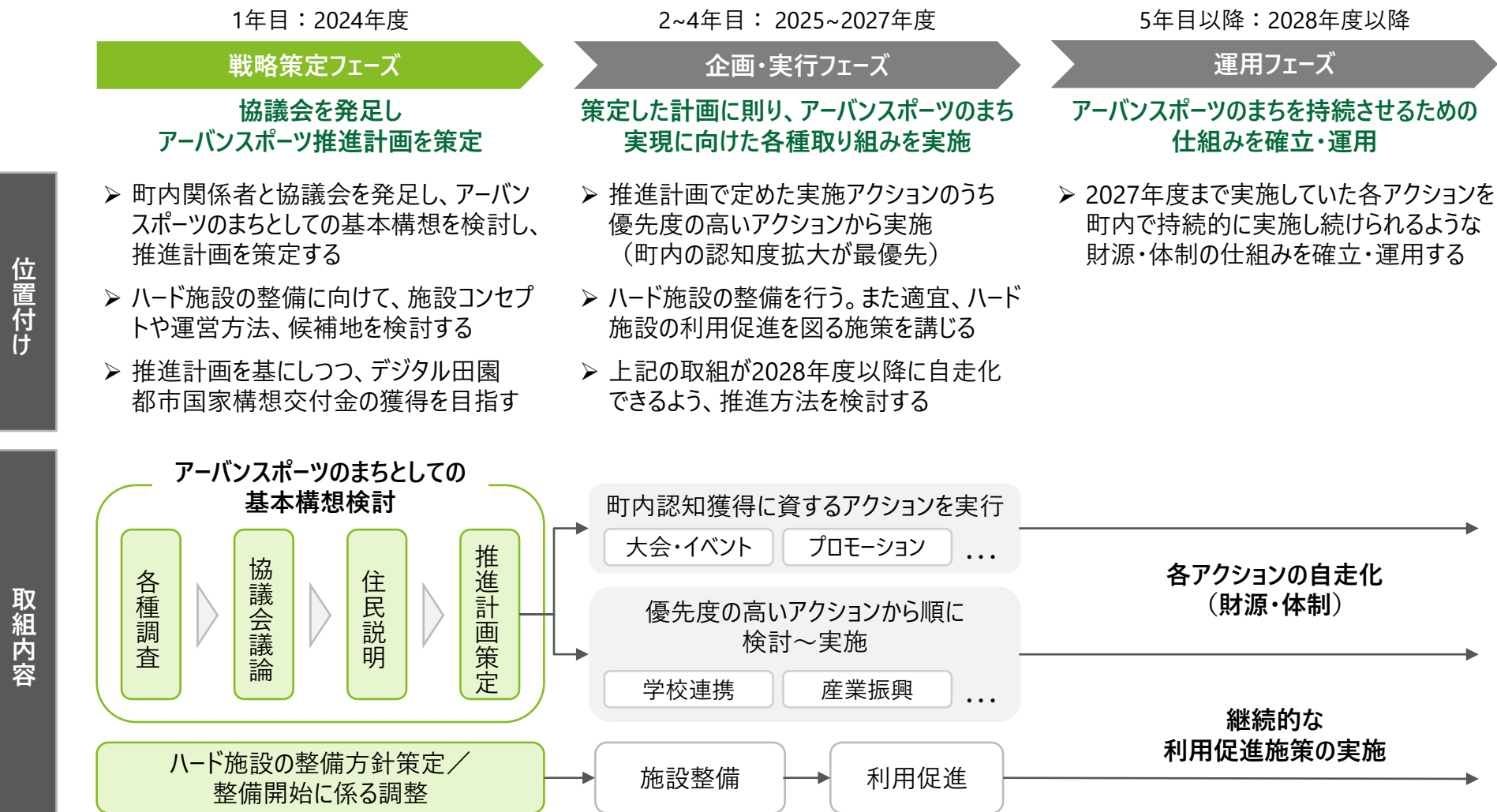
今度も本町が存続し続けるためには、
特に「定住促進」「にぎわいづくり」に資する取り組みを行うことによる年少人口の維持・増加が必要

2. 策定方法(業務プロセス)

2-1.仮説検証型の策定プロセス

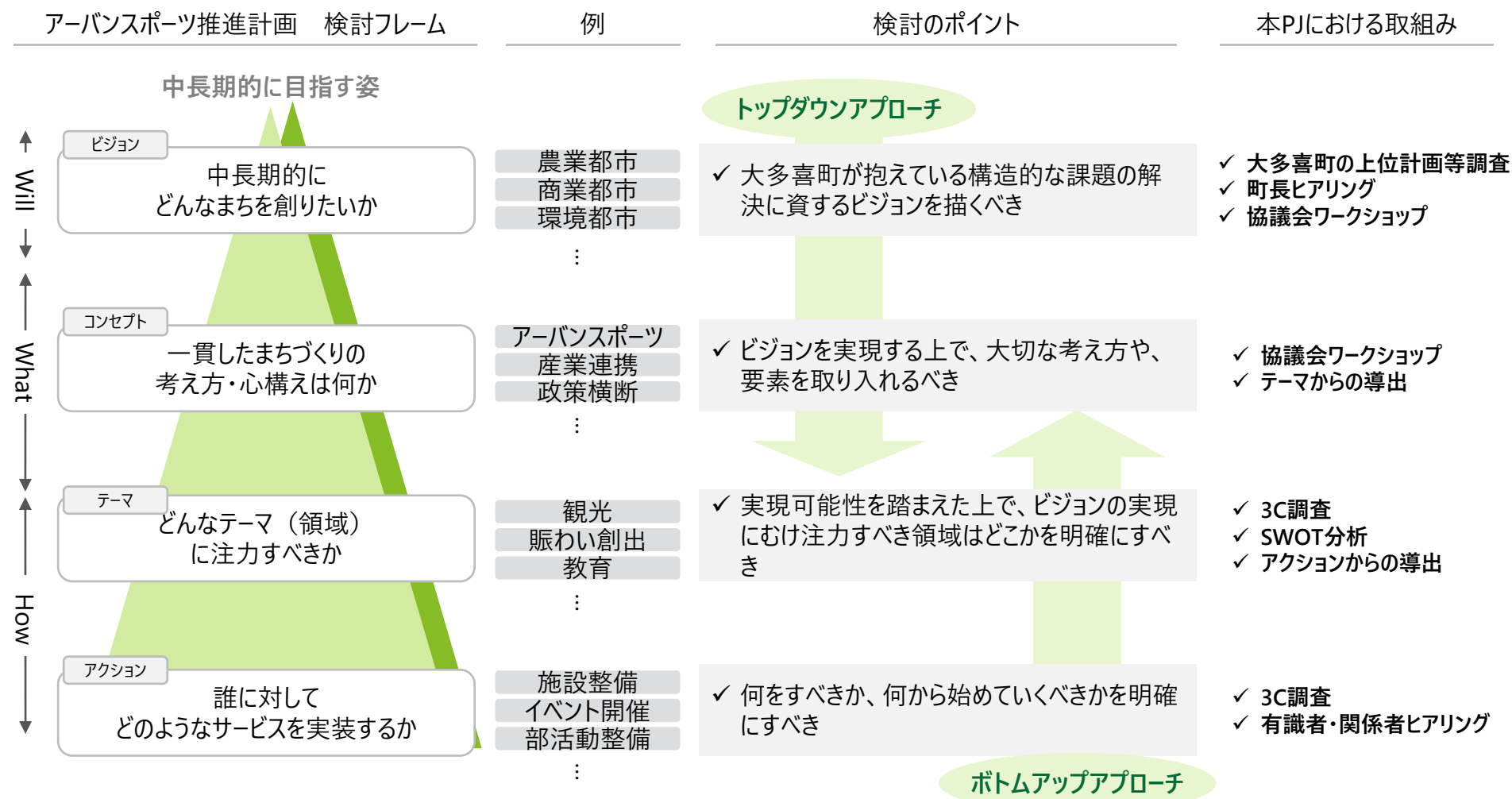
ハード・ソフトの両面から事業を推進することによりアーバンスポーツのまち実現を目指す中で 初年度はまず協議会を立ち上げ、アーバンスポーツのまちとしての基本構想を策定しました

本事業の今後の計画



アーバンスポーツ推進計画にて定めるべきビジョン、コンセプト、テーマ、アクションについて、 トップダウン・ボトムアップの双方向から検討・整理し、計画を策定しました

アーバンスポーツ推進計画の考え方

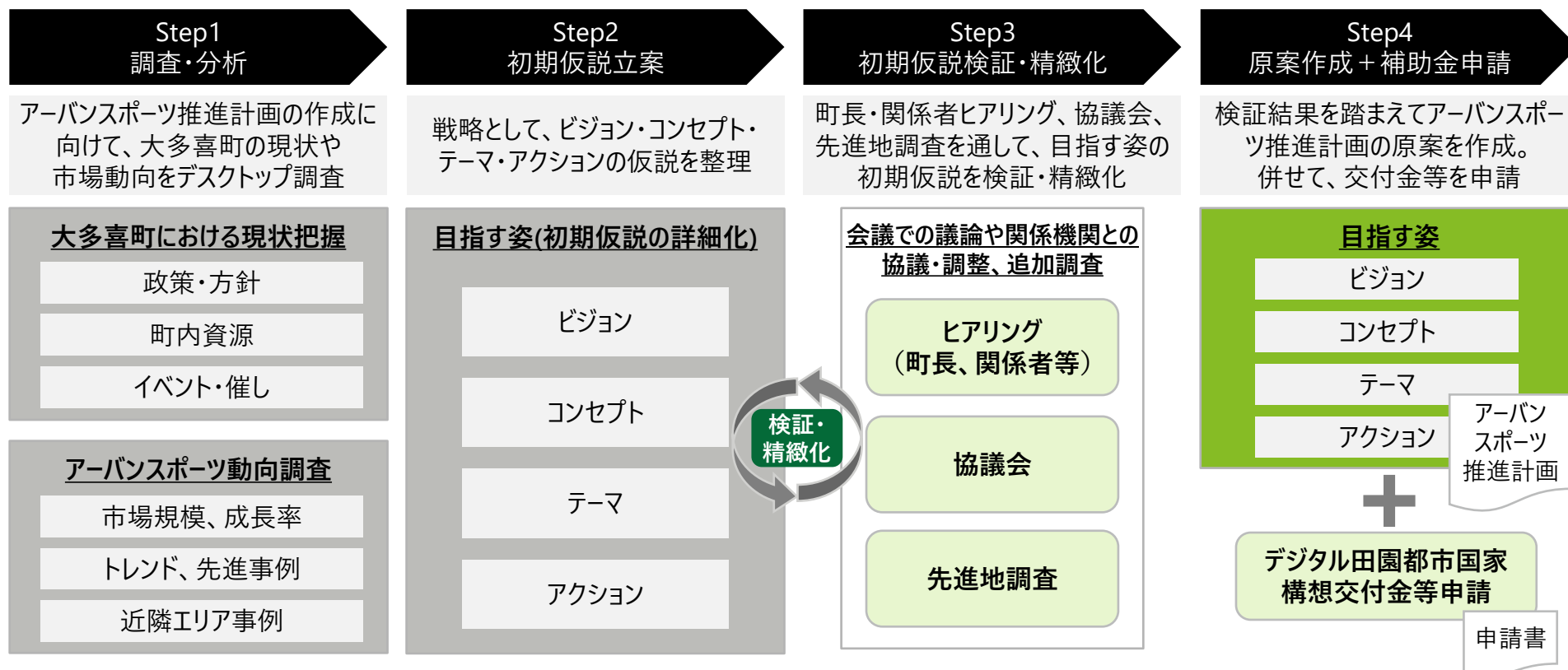


大多喜町アーバンスポーツ推進計画の作成に向けて、調査・分析結果から導出した目指す姿の仮説を基に、ヒアリングや協議会等を通して推進計画に落とし込んでいます

大多喜町アーバンスポーツ推進計画作成のアプローチ

推進計画作成のポイント

- 大多喜町の現状や市場動向の調査結果を基に、アーバンスポーツのまちとして目指す姿の初期仮説を作成し、**町内ステークホルダーの想いや実現性に関するご意見を踏まえた精緻化を行う**ことで、推進計画の原案作成を行う



3. 計画内容の検討

3-1. 調査設計

3-2. 外部環境調査

3-3. 内部環境調査

大多喜町における現状及びアーバンスポーツによる動向を把握するため、3C(市場・顧客：Customer、競合：Competitor、自社：Company)の観点で調査しました

調査設計

		調査項目	調査方法
市場・顧客調査	市場規模・トレンド調査	✓ アーバンスポーツの市場規模や成長率 ✓ アーバンスポーツに関するトレンドや先進事例 ✓ アーバンスポーツの特徴とリスク	• デスクトップ調査※1
	有識者インタビュー	✓ 元プロ選手から、ハード施設に必要な要件をヒアリング。もしくは、スポーツによる地域活性化に携わる有識者から、アーバンスポーツを中心としたまちづくり事業の成功要因や課題等をヒアリング ✓ ヒアリングにてアーバンスポーツのステークホルダー「する人」「見る人」「支える人」を整理	• ヒアリング調査※2
競合調査	近隣エリア	✓ 千葉県内でアーバンスポーツによる地域活性化を行っている自治体の動向調査 • 自治体概要、事業目的、協業体制、公民連携手法、KPI等 • 施設概要、費用、資金調達、稼働率、イベント、成功要因等	• デスクトップ調査※1 • 現地視察
	地方も含めた遠方エリア	✓ 千葉県外でアーバンスポーツによる地域活性化を行っている自治体の動向調査 • 自治体概要、事業目的、協業体制、公民連携手法、KPI等 • 施設概要、費用、資金調達、稼働率、イベント、成功要因等	• デスクトップ調査※1 • 現地視察
自町調査	アーバンスポーツに関する地域調査	✓ これまでの政策や方針に関する調査 ✓ アーバンスポーツを通じた地域活性化に必要な資源、戦略に合致する資源の調査 ✓ 観光地、飲食、宿泊施設、交通、イベント会場・賑わい拠点、スポーツ大会等の調査	• デスクトップ調査※1 • ヒアリング調査※2 • 現地視察

※1：デスクトップ調査：公開情報、WEB、SNSなどデジタルチャネルの外部ツールで情報取得

※2：ヒアリング調査：大多喜町や弊社のネットワークにより対象自治体及び対象者を選出

3. 計画内容の検討

3-1. 調査設計

3-2. 外部環境調査

3-3. 内部環境調査

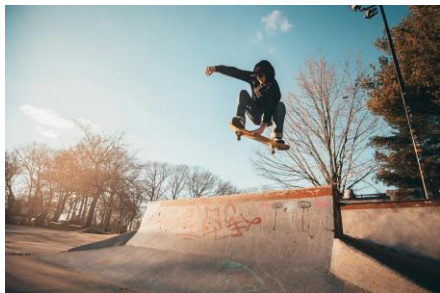
アーバンスポーツは音楽やファッションといった若者文化とともに進化するスポーツで、近年、複数競技がオリンピックの正式種目として採用される等、勢いを増しています

アーバンスポーツの定義

アーバンスポーツの定義※

- アーバンスポーツとは「エクストリームスポーツ（アクロバティックな技が魅力の競技群）の中で都市での開催が可能なもの」として、音楽、ファッションなど遊び感覚の高い若者文化とともに進化するものと捉えることができる
- 種目としては、ボルダリング、BMX、スラックライン、パルクール、トランポリン、スケートボード、3x3などを代表的な例として挙げることができるが、特に種目などを限定するものではない

スケートボード



スケートボードとは、前後に車輪がついた板に乗り、トリック（ジャンプ、空中動作、回転などの技）を行い、その技の難易度や高さ、スピードなどを評価する採点競技。**2020年の東京オリンピックで新たに正式種目として採用された**

スポーツクライミング（ボルダリング）



スポーツクライミングとは、山の岸壁に登るフリークライミングの競技性を高めたスポーツで、道具を使わずに、壁に取り付けられたカラフルなホールドを掴みながら登る競技である。**2020年の東京オリンピックで初めて正式種目として採用された**

BMX



BMX とは、バイシクルモトクロスの略称である。競技は主に「レース」と「フリースタイル」の2 種目があり、**オリンピックでは2008 年北京大会よりレースが正式競技として採用されていたが、2020年東京オリンピックではフリースタイルも追加となり、レースと併せて2 種目が正式競技となった**

ストリートバスケットボール（3x3）



ストリートバスケットボールとは、通常のバスケットボールコート半分程度のスペースで1 つのリングを使っておこなう競技である。1 対1 や3 対3 で行われ、スピーディな攻防が繰り広げられることが特徴で、**2020年の東京オリンピックで初めて正式種目として採用された**

※情報ソース：スポーツ庁,「アーバンスポーツツーリズム推進に向けた論点整理」, https://www.mext.go.jp/sports/content/20210407-spt_stiiki-000014050_1.pdf（参照 2024/9/29）

他アーバンスポーツと比較してBMXと3x3は、町内で指導の担い手人材の確保しやすいため本町においても着手しやすいと考えています

アーバンスポーツの比較

			スケートボード	BMX	スポーツライミング	ストリートバスケ (3 x 3)
大多喜町が取り組むべきアーバンスポーツ	大多喜町で推進を実現することができる	実現可能性	△ ✓ 現時点では指導を担う人材がいない	○ ✓ 3on3プロチームにてBMX選手と関係性を有しており、指導の担い手の招致が可能である	△ ✓ 現時点では指導を担う人材がいない	◎ ✓ プロチームが在籍しており、指導の担い手がいる ✓ 学校等と連携できる可能性あり
	地域住民を巻き込み、シビックプライド醸成につながる	始めやすさ	△ ✓ スケートボードの購入が必要 ✓ 誰もがやっているものではないため、心理的ハードル有	◎ ✓ 自転車購入費用が置き換わるのみ ✓ 自転車を利用していれば、比較的的心理的ハードル低	△ ✓ 誰もがやっているものではないため、心理的ハードル有	◎ ✓ バスケットボールの購入が必要 ✓ 授業等で経験しており、比較的的心理的ハードル低
		続けやすさ	△ ✓ 公道で使用不可 ✓ 練習はパークに行き、利用料を払う必要あり	◎ ✓ 公道で使用可 ✓ 本格的な練習はパークに行き、利用料を払う必要あり	△ ✓ 練習はパークに行き、利用料を払う必要あり	◎ ✓ 練習で学校や近隣公園が使用可 ✓ 場合によってパークに行く必要あり
	大多喜町の魅力として内外に発信できる	オリジナリティ	△ ✓ 大阪府松原市、茨城県笠間市等が先進的にまちづくりに活用しており、競合が多い状況	○ ✓ サイクルシティはロードバイクやシェアサイクルの活用に留まり、BMXは開拓余地あり	○ ✓ 神奈川県秦野市・松田町でツーリズムに活用しているものの、開拓余地あり	◎ ✓ 全国各地でパークは開いているものの、まちづくりとして打ち出しておらず、開拓余地あり
		大多喜町とのフィット	△ ✓ 大多喜町のこれまでの文脈やリソースとの親和性は低い	○ ✓ 自転車競技に関するイベントを既に何回か行っており、住民の認知度も高い	○ ✓ 大多喜町のこれまでの文脈やリソースとの親和性は低い	◎ ✓ プロチームが在籍しており、親和性が高い

BMXは、競技そのものの魅力に加え、他のコンテンツとの連動や体験機会の創出に取り組みやすい競技です。競技会を有効的に活用することで、賑わいの創出が期待できます

BMX競技の魅力

事例①

コンテンツ連動による無関心層の呼び込み



【YOKOHAMA URBAN SPORTS FESTIVAL】

他のスポーツや音楽・ダンス・アートなどのイベント連携により、若者やファミリー層等を集客。3x3と連動したイベント開催を行うことも考えられる

事例②

サイクリング体験機会の創出



【PEDAL DAY GO Mt. TSUKUBA】

地域の名所や商業施設といったチェックポイントが記載されたスタンプラリーを開催し、初心者含めたサイクリング体験を創出

事例③

教育・啓蒙プログラムとの連動・発信



【UCIが子供へのサイクリング教育を実施】

子どもたちに対して新しいサイクリング体験を提供するプログラムを開催。自治体が実施する自転車講習とBMXを掛け合わせて行うことも考えられる

情報ソース

YOKOHAMA URBAN SPORTS FESTIVAL, <https://yusf.jp/about/>, YUSFについて

PEDAL DAY GO Mt. TSUKUBA, <https://pedaldaygo.com/pedalday>, PEDAL DAY サイクルスタンプラリー、

UCI（国際自転車競技連合）、<https://www.uci.org/cycling-for-all-initiatives/65SkULQHfZqDmVghZqOOI6>, Cycling for All resources

3on3においても、無関心層が楽しめる・応援したくなる魅力を豊富に有しており、若者を中心に人気が急拡大しています

3on3の魅力

魅力①

コンテンツ連動による無関心層の呼び込み



【FIBA 3×3 World Tour】

ダブルダッチやBMXなどの他スポーツや、音楽・ファッション・アートなどのイベント連携により、3on3に元々関心がなかった人も含めて数万人規模の人を誘引

魅力②

プロリーグを通じて世界大会に出場可能



【3x3.EXE PREMIER】

3x3の国内プロリーグで上位の成績を収めることができれば、世界大会へ出場が可能。地域に根付いたチームが多い中で、世界大会出場は大きな郷土愛醸成に寄与

魅力③

人が集まる場所での試合ができ
魅力を幅広く発信



【各種試合 @賑わいスポット】

日本バスケットボール協会が『『リングとボール』があればどこでもプレイできる』と評するように、多くの人が集まるような場所に特設会場を設けて試合を行うことが可能

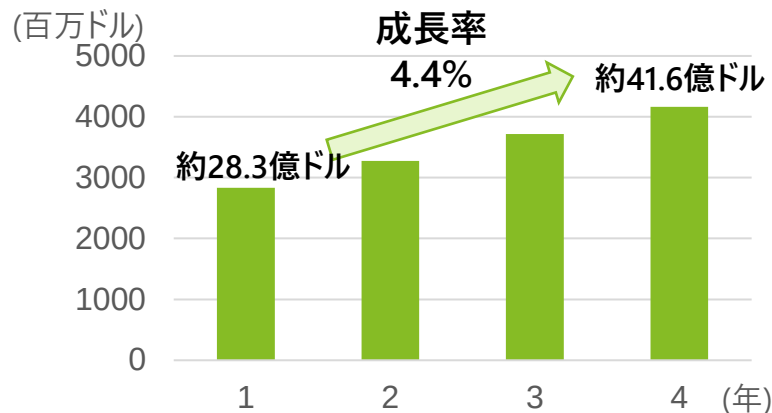
情報ソース

3x3.EXE PREMIER, <https://3x3exe.com/worldtour2023/news/20221130/>, game watching guide

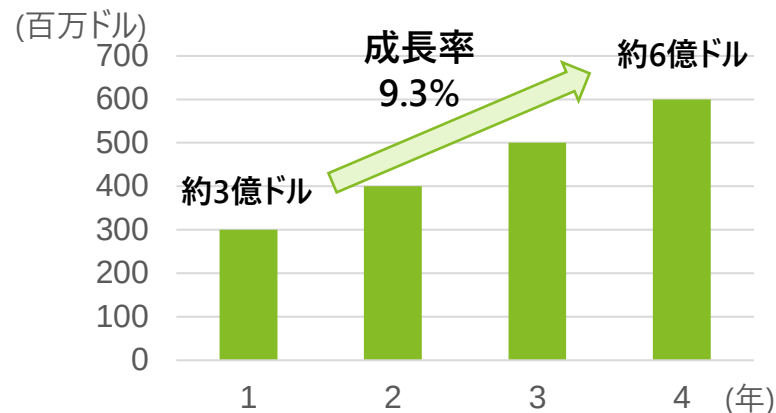
世界規模で実施された市場調査では、アーバンスポーツ市場は今後も高い成長率で成長を続けていくと予測されており、有望な産業であると考えられます

世界におけるアーバンスポーツ産業の伸び

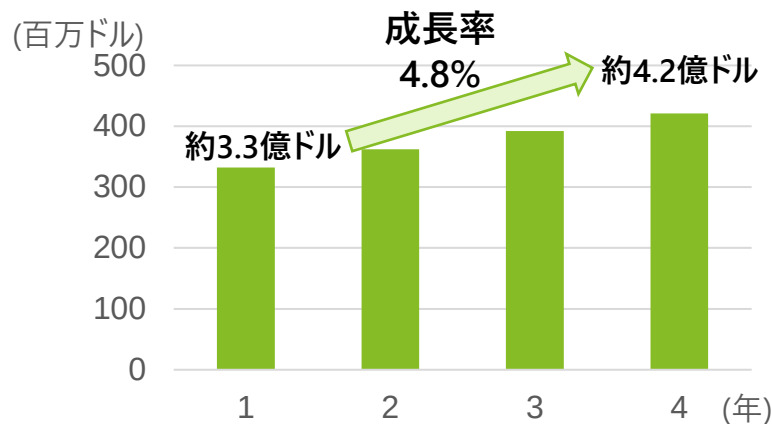
スケートボード ※1



スポーツクライミング（ボルダリング） ※3



BMX ※2



情報ソース

※1：市場調査レポート: スケートボードの世界市場の規模、シェア、成長分析：製品別、エンドユーザー別 - 産業予測（2023年～2030年）(gii.co.jp)

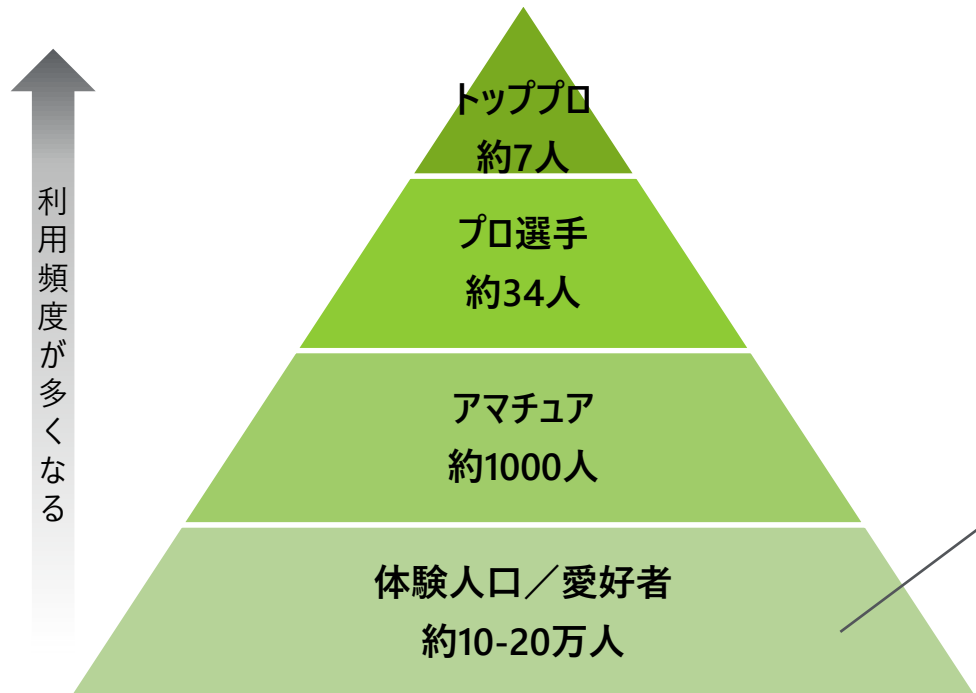
※2：BMX バイク市場規模、成長 | 世界産業レポート [2029]
(fortunebusinessinsights.com)

※3：クライミングジム市場規模 & シェアレポート, 2024 – 2032 (gm insights.com)

BMX利用者の多くがアマチュア層以下であることに加え、ストライダーがBMX体験のきっかけとなり得ることから、幼児期の子どもを含む幅広い層へのアプローチが効果的と考えます

BMXの競技者層

- 体験人口／愛好者は正確な人数は不明ではありつつ、かねてより**業界内では約10-20万人**と推定
- 国内で開催される大会参加者のうち、BMXのみを仕事にしているライダーはごく一部に過ぎず、**兼業のプロ選手やアマチュアが多数**



■ 子どもたちの間でストライダー人気が高まっている

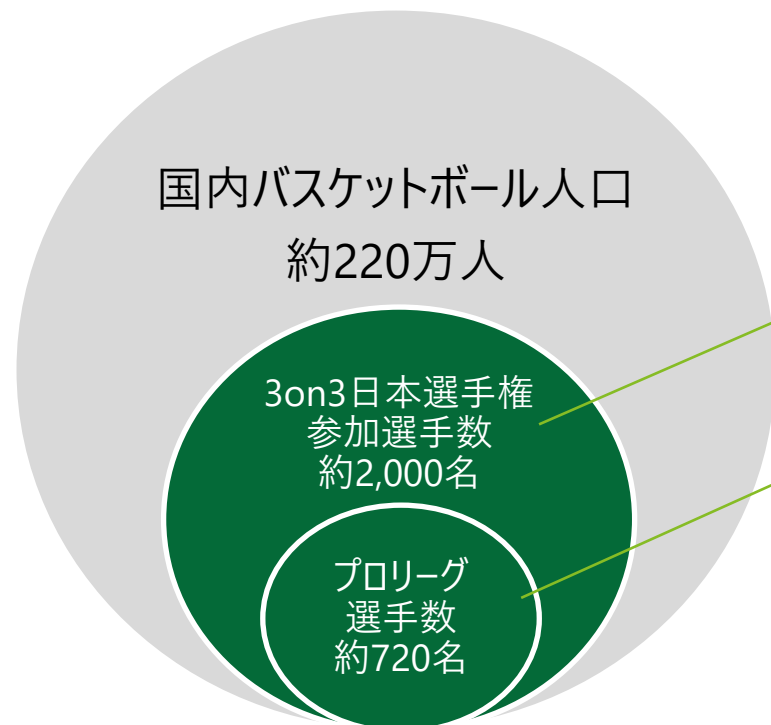
- 世界最年少レースであるストライダーの大会「STRIDER CUP」は、2010年に**世界で初めて日本で開催**されて以来、2024年まで毎年開催されている
- 2023年大会は参加者上限である792名の定員に達し、エントリーの受付を途中で終了するほど盛況であった
- ストライダーは自転車の入門的位置づけであるため、**ストライダーからの新規競技者の流入をデザインすることも一案**である



3on3は国内プロリーグが設立されており、参加チームは増加傾向であると共に、若年層においても競技者人口が増加しています

3on3の競技者人口

- 体験人口／愛好者は正確な人数は不明ではありつつ、約220万人のバスケットボール人口を潜在競技者層として保有
- 国内のプロリーグでも、会社員・Youtuber・Bリーガー等 **多様なライフスタイルを実現するデュアルキャリアの選手が多数参戦**
- 国内最大の大会である日本選手権における **U-18枠への参加チーム数が近年急増**するなど、**少人数で始められるハードルの低さ**が若者に人気



■ 若い競技者層の流入が近年急増

- 日本選手権（U-18）枠において2023年度は全国から約400チームが参加するなど、毎年参加チーム数は増加傾向にあり、**若い世代を中心に人気が高まっている**（千葉県からも31チームが参加）



■ 日本発のプロリーグは2014年の設立以降拡大を続け、2024年シーズンは5か国から男女90チームが参加

- **世界初の3on3バスケのグローバルリーグ**は発足後、国内外からの参加チームの増加を続け、世界最大規模のリーグへ発展
- 大規模なコートの所有が不要なため、個人・企業・商店街等 **多様な形でチーム運営が可能**であり、新チームのリーグへの参入障壁が低く、**持続性の高いスポーツ運営モデル**となっている

情報ソース

公益財団法人日本バスケットボール協会, <https://3x3japanchampionships-u18-2023.japanbasketball.jp/>

3x3.EXE PREMIER, https://3x3exe.com/premier/about_premier/, About 3x3.EXE PREMIER

千葉市にある施設には実際に視察を行い、本町においてもハード・ソフトそれぞれの施策を連携しながら実施する重要性を認識しました

先進地視察結果サマリ（千葉市）

概要

PIST6 PUMPTRACK CHIBA



- 材質
コース路面はアスファルト、コース間は天然芝
- 利用できる種目
BMXフリースタイル、スケートボード、インラインスケート 等
- 利用者概況
 - ・ 全体会員は1,100名ほど、月の利用者は550-600人
 - ・ 70-80%がリピーター層で主に平日に利用。休日はファミリー層が主に利用
 - ・ 年代は10代、30-40代、40-50代が1/3ずつ
 - ・ 県内からの利用が50-60%、残りは関東圏からの利用者
- 騒音について
 - ・ 営業時間中は音楽がかかりにぎやかな環境を演出しているが、トラブル等はこれまで未発生

視察ポイント及び示唆

ポイント①

- 幅広い競技レベルの利用者に対応可能な施設設計・運営体制
 - ・ 上級者でも楽しめるコース設計にしつつ、空きスペースで初心者向けのスペースを確保
 - ・ コーチ配置による初心者向けのレクチャー体制を整備
 - ・ 初心者向けの体験会を月に2回開催

大多喜町での検討における示唆

施設の機能・運用設計にあたってはターゲットとする利用者層や競技者レベルの明確な設定が必要

ポイント②

- パンプトラックを中心としてハード・ソフトを組み合わせた集客体制
 - ・ 千葉公園内には芝生やカフェ、PIST6競技場があり、パンプトラック目的以外の来訪者からの認知を獲得
 - ・ MTB・BMX・スケボー等多様な競技に対応した施設設計により幅広い競技者層を確保

大多喜町での検討における示唆

外房地域へのサーファー層の取り込みやマウンテンバイク競技者層の練習場としての活用など、町内のみならず町内外からの幅広い集客につながるようなハード・ソフト両面での設計が必要

3. 計画内容の検討

3-1. 調査設計

3-2. 外部環境調査

3-3. 内部環境調査

若者の転出超過を解決するためには、若い世代に刺さる「新たな魅力」となり、本町のにぎわい創出の拠点・プラットフォームとなるような場づくりが必要であると考えます

大多喜町の課題

課題：若者の転出超過

- 10～19 歳未満の人口区分が転入超過となっている一方、20～49 歳までの人口区分については転出超過であり、若年層においては更にその傾向が顕著
- 年少から学生等になる時期に転入し、社会人になる時期に転出する傾向が見られ、当該世代への訴求力ある魅力が必要

2023年・転入－転出の年代別人数

年代	0～9歳	10～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上
人数	5	14	-39	-17	-2	0	8

20～40歳までの
人口区分が転出超過

課題：地域の賑わい拠点の不足

- 「関係人口や交流人口の拡大を図るためにも、本町の様々な魅力を町の内外にPR するシティプロモーション」を事業として進めてきたものの、既存の資産である歴史・文化等のPRが中心となっており、若者への訴求力が弱い
- 多様化するレクリエーション需要に対応するため、**本町の新たな魅力の創出や、交流人口の拡大に向けて、アーバンスポーツ施設をはじめとした施設整備を行うことが求められる**

既存の資産



大多喜城



いすみ鉄道



養老溪谷

大多喜町は歴史文化資産を活用した魅力ある観光資源を有するが、若者への訴求力が弱い

若い世代に刺さる「新たな魅力」となり、町の賑わい創出の拠点・プラットフォームとなるような場が必要

情報ソース：
総務省統計局（<https://www.stat.go.jp/data/idou/index.html>）「住民基本台帳人口移動報告」

情報ソース：大多喜町観光協会, <https://kankouotaki.com/Otakijo.html>, 見どころ

多くの人が集まる大多喜町のイベントや施設に、町内で新たに盛り上がりを見せるアーバンスポーツを掛け合わせることで、賑わい創出やシビックプライド醸成に寄与すると考えます

自町資源、アーバンスポーツ関連のホットトピック

既存の自町資源（イベント、施設）

イベント

■ 大多喜お城まつり

- ・武者行列が大多喜城を周遊
- ・和太鼓パフォーマンス、手裏剣投げ体験、**バスケットボールチャレンジ**等のコンテンツを展開



■ OTAKI "SENGOKU" EXTREMES

- ・トレイルラン、マウンテンバイク、デュアスロン3種目に参加可能
- ・各競技の特性を活かしたコースで、それぞれ違った大多喜町の自然を楽しむことができる



施設

■ B&G海洋センター

体育館・プール・多目的広場などからなる、公共のスポーツ施設で、お城祭りの会場にもなる

■ 大多喜町観光本陣

いすみ鉄道大多喜駅前にある町の観光拠点となる観光センター

アーバンスポーツ関連のホットトピック

■ esDGz OTAKI.EXEの活躍

- ・esDGz OTAKI.EXEは、**プロスポーツ選手のデュアルキャリア開拓と大多喜町の活性化**をテーマとして立ち上がった3×3プロバスケットチーム。「大多喜」の看板を背負って試合に臨み、スクールやイベント等の活動を通して**大多喜町の知名度向上**、価値創造に貢献
- 競技外では農業に取り組んでおり、大多喜町の人材面の課題を解決するとともに、大多喜町の自然が持つ本来の力を引き出し、**地域の発展に貢献**



- ・esDGz OTAKI.EXEは、スクールや幼児の運動教室、学校体育の授業、高齢者の健康運動の指導等を定期的に行うことで、住民にスポーツを体験する機会を提供



町民を集めたワークショップや町内中高生、町長へのヒアリングを開催し、 大多喜町におけるアーバンスポーツ推進に関してご意見を頂戴しました

ワークショップ開催結果

目的

- ✓ 大多喜町における「アーバンスポーツによるまちづくり」の根幹を成す**ビジョン・コンセプト**や、それらの実現に向けて**取り組むべき事業・アクション**につながる**意見**を出し合い、推進計画の作成につなげる

テーマ①

「大多喜町がアーバンスポーツのまちになっている」とは
どのような状態か？

テーマ②

大多喜町における“アーバンスポーツのまち”に
あったら嬉しい事業やアクション

協議会委員（8名）



町内中高生
（中学生6名・高校生3名）



町内には「しない人」が圧倒的に多い中で、それらの層にも裨益がある事業を展開し、生活の豊かさ向上・シビックプライド醸成を実現してほしいという声が上がりました

ワークショップで挙がった「アーバンスポーツのまち」のイメージ

「アーバンスポーツのまち」とは どんなまち？

機能的な価値

ハード・ソフト両面からの環境整備によって
「する人」も「しない人」も楽しめる

する人向け

自然を活用した
BMXのモデル
コースが整備され
ている

学校で部活が
発足している

子供たちが学校
で日常的に体験
できる

ショップが充実し
ている

しない人向け

競技者の親が
移住したいと
思える

観る側も楽しめ
るイベントが開催
されている

初心者でも参加
しやすいイベント
や体験会がある

学生が放課後に
楽しめる・集まれ
る環境がある

感情的な価値

生活が豊かになるだけでなく、町内外からの関心度が
高まることで町民の誇れるまちにする

誇り

町外から
若者・競技者が
集まる

メディアへの露出
機会が増える

町外から認知さ
れ、行きたくなる

進学等で町を
出た人が、
帰って来なくなる

豊かさ

子供～シニア層
までが関わり
楽しいと思える

地場企業が
アーバンスポーツ
に関わる

子供にやりたいこと
ができて、既存部活
以外の活躍も評価
される

Point

ハード整備以外にも、アーバンスポーツをきっかけに幅広い年齢層の町民の活動が活性化していくことが望ましい
→町民や町内団体がアーバンスポーツの魅力を知る機会を創出しながら、アーバンスポーツ推進を進める必要あり

主に若年層に対するアーバンスポーツの普及事業や町内産業とのコラボ事業、観光促進に資する事業に関して多くのご意見が挙がりました

ワークショップで挙がった事業アイデア

ご意見が多かった内容① アーバンスポーツの町内普及

町内学校の体育での実施や
子供向け体験会の実施

アーバンスポーツの部活動・
地域クラブの設立

町のスポーツ協会の
登録競技への登録

ご意見が多かった内容② 町内他産業の活性化

アーバンスポーツグッズの
ショップ設置

飲食店によるアーバンスポーツ
メニューの開発

地域の自転車屋がBMXの
販売・修理

いすみ鉄道×アーバンスポーツ
のコラボ企画の開催

ご意見が多かった内容③ 観光・来訪促進に資する活用

町内各方面へのBMXやe-
bikeのモデルコース設置

飲食店等への
サイクルマップの設置

自転車で町を訪れた競技者
用の宿泊施設の整備

大多喜町では長年地域に根付いた観光資源を有する一方、若者を誘引するコンテンツが不足している中、若者から人気の高いアーバンスポーツが盛り上がりを見せています

調査結果のサマリ

内部環境



強み

- 養老渓谷を始めとした豊かな自然や大多喜城、いすみ鉄道など、長年地域に根付いている魅力的な観光資源を保有
- 大多喜お城まつり、OTAKI "SENGOKU" EXTREMES等、地域の魅力とスポーツを掛け合わせたイベントを毎年開催
- プロスポーツチームesDGz OTAKI.EXEの、競技面での活躍とデュアルキャリアモデルの構築



弱み

- 次なる担い手となる若い世代の転出超過
- 若い世代を誘引する観光コンテンツ、町の賑わい創出の拠点・プラットフォームとなるような場の不足

外部環境



機会

- アーバンスポーツの市場規模・人口・認知度の増加、文部科学省・スポーツ庁によるアーバンスポーツツーリズム推進
- 競技・ストリートカルチャーの両面を有するアーバンスポーツの、他産業やイベントとの高い親和性



脅威

- アーバンスポーツ自体の音に加えて、音楽等との相性がよい故の、騒音トラブルのリスク
- 他地域におけるアーバンスポーツへの注力度向上
 - 岩手県大船渡市、福島県新地町、茨城県笠間市・境町、神奈川県横須賀市、宮崎県宮崎市等がアーバンスポーツに注力したまちづくりを展開

4. 大多喜町アーバンスポーツ推進計画の方針

4-1.ビジョンの策定

4-2.推進計画の全体像

町の総合計画の方向性にも則りつつ、協議会委員や町長からのご意見を踏まえ ビジョンやコンセプトを導出していきました

ビジョン策定

アーバンスポーツ 振興の目的

【大目的】住みたい、訪れたいと思う魅力を作り、若者の人口減少を食い止める

- ✓ アーバンスポーツによって、自然等の大多喜の魅力を再発見できる
- ✓ 多様な趣味嗜好に対応できる環境を整備する

総合計画及び町民のご意見を踏まえ
目指すべき方向性を策定

第3次総合計画 後期計画



町長・協議会委員・町内の若年層から 上がった「アーバンスポーツのまち」

「する人」も「しない人」も楽しめる環境が整っており
生活の豊かさ向上・郷土愛醸成を実現したい

機能的な価値

ハード・ソフト両面からの
環境整備によって
「する人」も「しない人」も
楽しめる

感情的な価値

生活が豊かになるだけでなく
町内外からの関心度が
高まることで町民の誇れる
まちにする

「大多喜町アーバンスポーツ推進計画」におけるビジョン

アーバンスポーツを通じて、大多喜の多様な魅力をつなぎ、
行きたくなる・住みたくなるまちを創る

4. 大多喜町アーバンスポーツ推進計画の方針

4-1. ビジョンの策定

4-2. 推進計画の全体像

大多喜町では長年地域に根付いた観光資源を有する一方、若者を誘引するコンテンツが不足している中、若者から人気の高いアーバンスポーツが盛り上がりを見せています

再掲

調査結果のサマリ

内部環境



強み

- 養老渓谷を始めとした豊かな自然や大多喜城、いすみ鉄道など、長年地域に根付いている魅力的な観光資源を保有
- 大多喜お城まつり、OTAKI "SENGOKU" EXTREMES等、地域の魅力とスポーツを掛け合わせたイベントを毎年開催
- プロスポーツチームesDGz OTAKI.EXEの、競技面での活躍とデュアルキャリアモデルの構築



弱み

- 次なる担い手となる若い世代の転出超過
- 若い世代を誘引する観光コンテンツ、町の賑わい創出の拠点・プラットフォームとなるような場の不足

外部環境



機会

- アーバンスポーツの市場規模・人口・認知度の増加、文部科学省・スポーツ庁によるアーバンスポーツツーリズム推進
- 競技・ストリートカルチャーの両面を有するアーバンスポーツの、他産業やイベントとの高い親和性

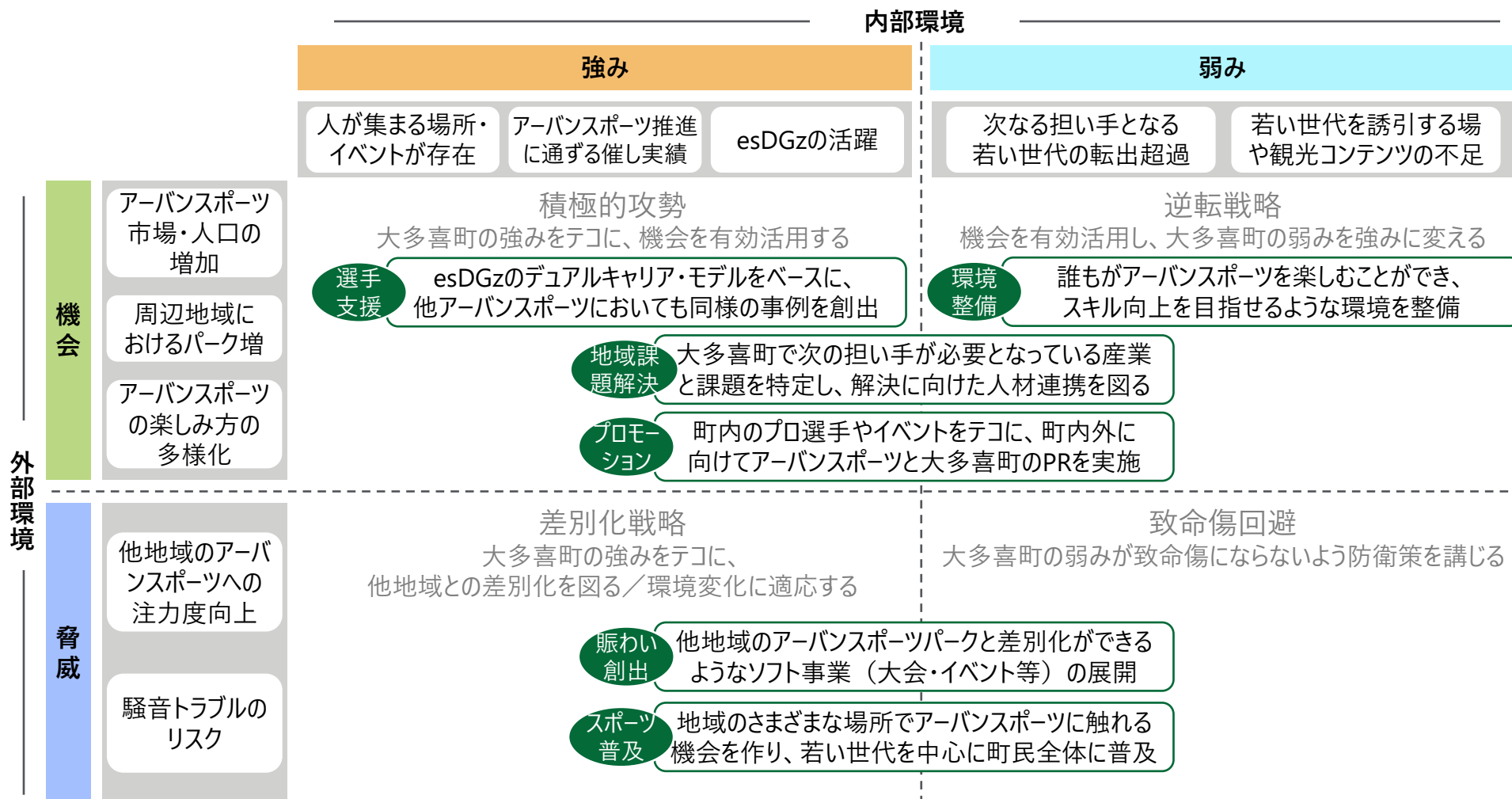


脅威

- アーバンスポーツ自体の音に加えて、音楽等との相性がよい故の、騒音トラブルのリスク
- 他地域におけるアーバンスポーツへの注力度向上
 - 岩手県大船渡市、福島県新地町、茨城県笠間市・境町、神奈川県横須賀市、宮崎県宮崎市等がアーバンスポーツに注力したまちづくりを展開

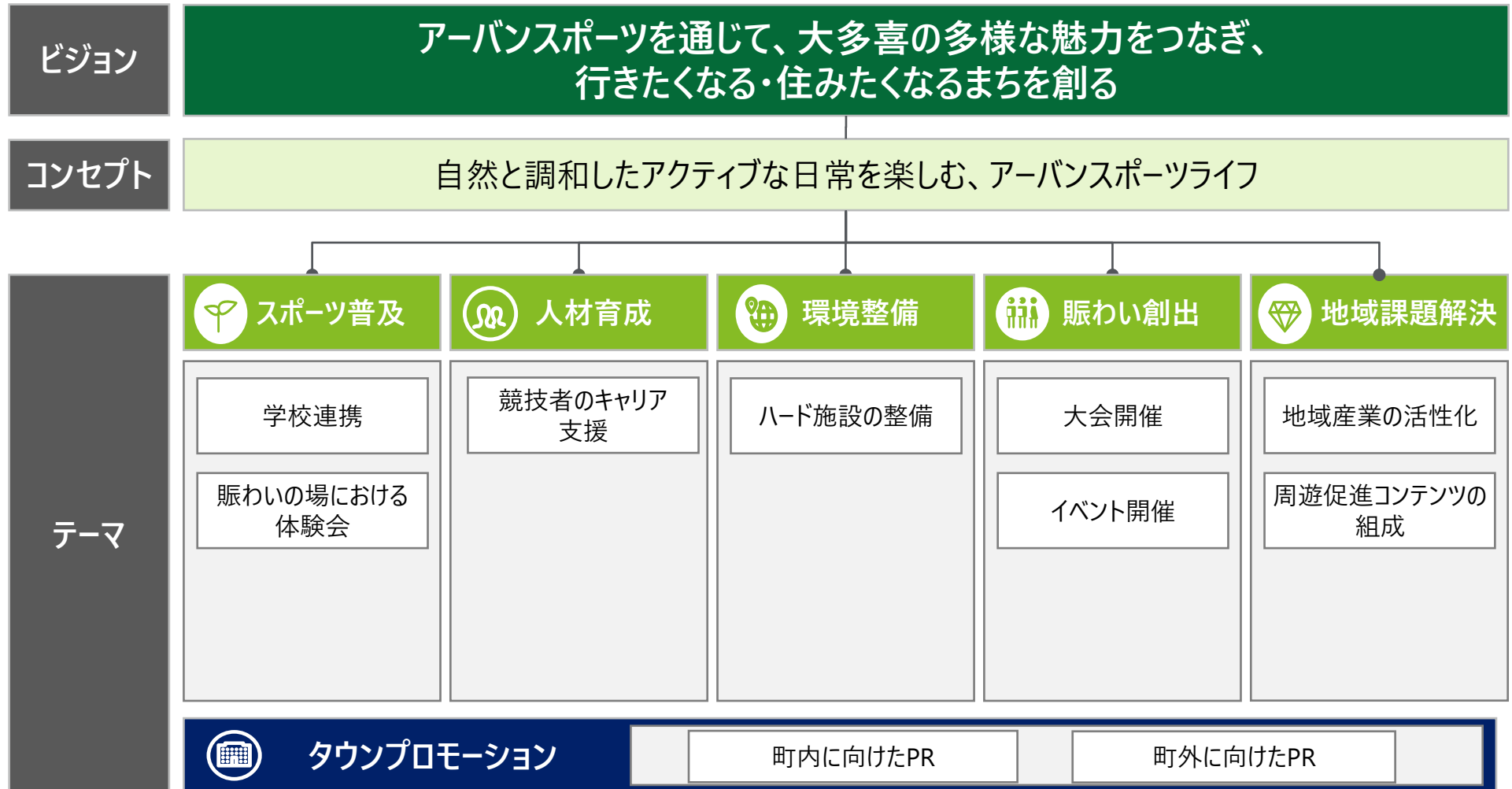
調査結果を基にSWOT分析を実施し、大多喜町独自のアーバンスポーツ推進を進める上で取り組むべき事業テーマの仮案を導出しました

大多喜町が今後取り組むべき事業テーマ案



ハード・ソフト両面からの事業推進によって大多喜町の多様な魅力をつなぐことで、「アーバンスポーツのまち」を実現するに留まらず、まちの魅力最大化に努めます

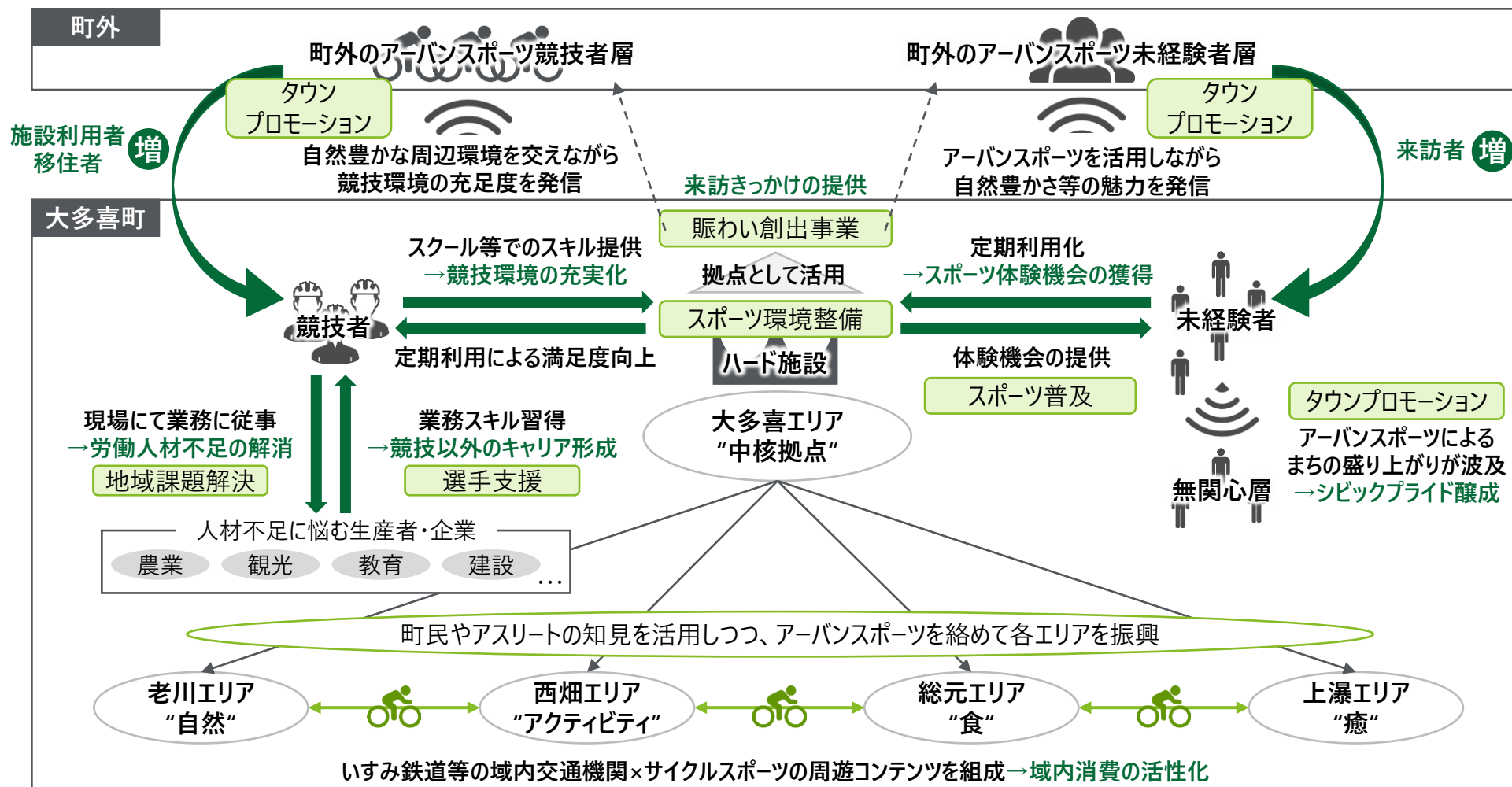
まちづくり戦略の全体像



競技者にとって魅力的なスポーツ環境を構築することで町外からの人材の流入を促進し、 大多喜が有する魅力を活性化・発信させることで、しない人の流入も促進します

大多喜町におけるアーバンスポーツ推進の目指す姿

ビジョン案：アーバンスポーツを通じて、大多喜の多様な魅力をつなぎ、行きたくなる・住みたくなるまちを創る



5.施策内容

5-1.施策一覧

5-2.各施策の詳細

各事業テーマを9つのアクションに分解し、これら9アクションの推進を図ります

事業テーマに紐づくアクション案

	テーマ	アクション	概要	想定実施時期
スポーツ推進	スポーツ普及	1 学校連携	・ 大多喜町内の教育機関と連携したアーバンスポーツ授業の開講（体験・総合学習等）や、地域クラブチームとの連携によるアーバンスポーツ部設立	令和8年度～
		2 賑わいの場における体験会	・ 人の集まる場（商業施設・公園・イベント等）におけるアーバンスポーツ各種目の体験会開催	令和7年度～
	選手支援	3 スポーツ関連人材のキャリア支援	・ アーバンスポーツ関連の仕事と人材不足に悩む町内産業の担い手としての仕事を両立するキャリアモデルの構築	令和7年度～
	スポーツ環境整備	4 ハード施設の整備	・ アーバンスポーツを初・中級者が楽しめる施設を整備 ・ 上記以外にもアーバンスポーツ等を楽しめる施設の整備に向けた検討	令和6年度～
	賑わい創出	5 大会・イベントの開催	・ アーバンスポーツ無関心層も訪れたいコンテンツを組み込んだ、町内・関東圏から愛好家が集まる「アーバンスポーツのまち」を象徴する大会を開催	令和8年度～
まちづくり連携	地域課題解決	6 地域産業との連携促進	・ 大多喜町で担い手不足の産業とその課題を特定し、解決に向けアスリートとの人材連携を促進 ・ アーバンスポーツを活用し、町内事業者との新規事業や取り組みを組成	令和7年度～
		7 周遊促進コンテンツの組成	・ アーバンスポーツを活用し、町内観光資源等の周遊を促進させるコースの設計	令和8年度～
	タウンプロモーション	8 町内に向けたPR	・ 大多喜町のアーバンスポーツ推進のシンボルとして、町内の集まりや活動でも利用可能なロゴや等を制作し、町内外に向けて発信	令和7年度～
		9 町外に向けたPR	・ 「アーバンスポーツのまち」及び大多喜町の魅力を町外へPRするためのコンテンツを生み出し、SNSを中心として発信	令和8年度～

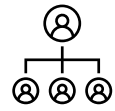
5.施策内容

5-1.施策一覧

5-2.各施策の詳細

町内の教育機関と連携したアーバンスポーツの体験・学びの機会の創出や、部活動の立ち上げに向けた検討を通じて町内の若年層に向けた普及促進を目指します

アクション【1】学校連携

施策概要	・町内教育機関におけるアーバンスポーツの体験・学習の機会の確保			
目的	・町内の若年層への魅力・関心の拡大を通じたアーバンスポーツの普及促進			
計測指標	・町内小中学校、高校におけるアーバンスポーツ体験・学習機会の開催数			
ステークホルダーと役割				
・生涯学習課 本アクションに関する全体方針検討、町内教育機関との調整 ・町内教育機関（小学校～高校） 年間の行事計画や学習カリキュラムにおける体験・学習機会の設計 ・アーバンスポーツ団体： 学校での体験機会の運営、アーバンスポーツ学習・キャリア教育等での講師				
次年度以降 取り組む内容	2025年度	2026年度	2027年度	
	・分科会の開催 ・町内教育機関での体験会開催に向けた調整 ・（町内教育機関における出前授業）	・小中学校での体験会開催 ・町内教育機関における総合授業への組み込み／事後アンケートの実施 ・希望者による協議会参加 ・アーバンスポーツ部組成に向けたニーズ調査	・（前年度の振り返り結果を踏まえて要否を判断）総合授業や体験会の実施 ・希望者による協議会参加 ・前年度のニーズ調査結果を踏まえた、部活動または地域クラブに関する検討	
	施策			
■ 町内教育機関でのアーバンスポーツ体験・学習機会の確保 <実施内容案> （以下について、各教育機関と実施可能性を確認のうえ推進予定） ・体育の授業、運動会等でのアーバンスポーツ体験機会の創出 ・アーバンスポーツのアスリートによる出前授業・総合的な学習の時間等における授業の実施 ・町内におけるアーバンスポーツ部設立に向けた検討			学校におけるアーバンスポーツ体験・学習機会の創出  運動会・体育の授業での体験 キャリア教育・地域学習におけるアーバンスポーツ×まちづくりの授業	アーバンスポーツ部設立に向けた検討  町内ニーズ調査 運営体制の検討 指導人員の確保
収益・コスト			・収益：特になし ・コスト：体験会等実施に係る機材費・人件費	

48

町内のアーバンスポーツ無関心層への認知拡大・普及促進を目指して、
多数の人が集まる賑わいの場を活用したアーバンスポーツ体験機会の提供を行います

アクション【2】賑わいの場における体験会

施策概要	・町内の賑わいイベントにおけるアーバンスポーツ体験会の開催		
目的	・町内におけるアーバンスポーツの競技者数の増加 ・主に町内におけるアーバンスポーツの魅力発信		
計測指標	・体験会への参加者数 ・参加者のうち、町内パンプトラックの利用につながった割合		
ステークホルダーと役割			
・生涯学習課 本アクションに係る全体方針検討、連携候補イベントの整理・協力打診 ・アーバンスポーツ団体 体験会ブースの企画・当日運営 ・観光協会 連携候補イベントの洗い出し ・イベント実行団体/委員会／スペース提供事業者 体験会スペースの提供に向けた各種調整			
次年度以降 取り組む内容	2025年度	2026年度	2027年度
	・賑わいの場・イベント（オリブや大多喜お城まつり等）における体験会の開催 ・上記取り組み内容の結果振り返り →次年度実施要否と実施方針の策定	・前年度に策定した実施方針を踏まえ、必要に応じて実施	・前年度に策定した実施方針を踏まえ、必要に応じて実施
	施策		
■ 大多喜町民を対象とした、町内集客施設・スペース等での体験会開催・既存イベントと連携した体験会の開催 Ex. BMX、3x3、 ＜連携先施設・スペース（案）＞ ・おおたきショッピングプラザ オリブ ・いすみ鉄道 ・大多喜城			
■ 大多喜町内外から人が集まる大規模イベントにおけるアーバンスポーツ体験会の開催 ＜連携先イベント（案）＞ ・大多喜マチルシェ ・大多喜お城まつり ・OTAKI SENGOKU EXTREMES			
収益・コスト			・収益：体験会での物販売り上げ（出展有の場合） ・コスト：体験会開催に伴う出展費、その他設備費・人件費

情報ソース：おおたきショッピングプラザ オリブ <https://olive-sc.com/access/> アクサ



アーバンスポーツに係る収入に加えて町内での就業による収入を得られるキャリアモデルの構築を支援できる制度を整備することで、指導者人材の確保を目指します

アクション【3】競技者のキャリア支援

施策概要	・アーバンスポーツ関連の仕事（現役競技者としての大会出場なども含む）と人材不足に悩む町内産業の担い手としての仕事を両立するキャリアモデルを構築
目的	・スポーツ関連人材の移住意欲喚起 ・多様なキャリアを実現できるモデルケースの確立 ・町内産業における労働人材不足の解消
計測指標	・町内事業者の元で働き始めたアスリートの人数（→2027年度までは1件でも事例を作ることが目標）
ステークホルダーと役割 ・生涯学習課 本アクションに関する全体方針検討、町内事業者への調整、助成の検討 ・商工観光課／農林課／商工会等 就業先候補となりうる町内事業者の洗い出し、お声がけのご協力 ・アーバンスポーツ団体 選手又はスポーツ関連人材へのアプローチ ・大多喜学園 自社実績を踏まえた知見共有	
次年度以降取り組む内容	
2025年度	2026年度
・分科会の開催 ・スポーツ関連人材へのキャリア形成に対する現状・ニーズヒアリング ・スポーツ関連人材と町内事業者のマッチングに向けた要件整理	・スポーツ関連人材と町内事業者のマッチング手法の策定 ・上記マッチングの実現に向け、候補となるスポーツ関連人材の洗い出し／調整

施策

- 競技者がアーバンスポーツに関する取り組みをしつつも、町内事業者の元で就業できる環境を構築する

好きなことでのキャリア形成

選手又はサポート役として関与

町内競技施設

練習を経て、大会で活躍

指導、施設運営、体験会開催等で育成や普及に従事

競技団体への個別アプローチ等で候補人材を洗い出し

生計の安定化・ビジネススキル獲得

担い手として就業

人材不足に悩む町内事業者

農業 観光 教育 建設 ...

情報発信や各種制度活用による就業先候補企業の確保

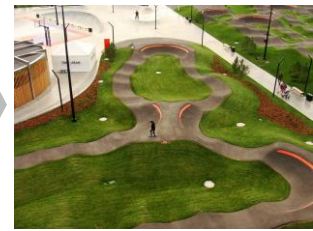
収益・コスト

収益：特になし
コスト：特になし（必要に応じて、町内事業者へ助成）

50

本事業の拠点として、実現性を担保できる範疇で多様なアーバンスポーツを受け入れられる施設を整備することで、町内におけるアーバンスポーツ競技者人口増加を目指します

アクション【4】ハード施設の整備

施策概要	- アーバンスポーツを初・中級者が楽しめる施設を整備 - 上記以外にもアーバンスポーツ等を楽しめるハード面の取組に関するニーズ調査や整備する場合の実現方法を検討	施策		
目的	- 町内における競技者人口増加 - アーバンスポーツが実施できる環境づくり	■ 町内に各種アーバンスポーツの初・中級者が楽しめる施設を新設 → 大多喜町の魅力（＝自然／里山）を楽しむことが可能な自転車競技にまずは焦点を当て、それら競技の競技者が集まる環境を整備 <施設概要> - コンセプト 町民が集まり、複数のアーバンスポーツを気軽に楽しめる - 対象競技 BMX、MTB、スケボー - 運営手法 指定管理制度 - 場所 大多喜町B&G海洋センター 自転車競技者が楽しめる施設のイメージ  ■ 中長期的には、上記施設以外にもアーバンスポーツを楽しめる施設の整備が実現されることを目指し、各種検討を推進 - ニーズ調査：町内若年層や町外アスリートを中心とした方々のニーズ把握 - 実現性調査：候補地や施工・運営を行う民間事業者の洗い出し・アプローチ		
計測指標	施設利用者数	収益・コスト		
ステークホルダーと役割		収益：利用料／体験会等各種イベントの参加料 コスト：施設の維持管理費、人件費、備品整備費		
次年度以降 取り組む内容	2025年度		2026年度	
	- 分科会の開催 - アーバンスポーツ施設の新設 - こけら落としイベントの開催		アーバンスポーツ施設の利用状況モニタリング → 必要に応じて、利用促進に資する情報を町内外へ発信	
	2027年度		施設の利用状況を踏まえて、必要に応じて新たなハード整備に関するニーズ調査などの実施	

町内外への本事業の取り組みの浸透を目指し、「アーバンスポーツのまち」を象徴するような大会や交流人口増加に資するイベントを開催します

アクション【5】大会・イベントの開催

施策概要	アーバンスポーツ無関心層も訪れたいコンテンツを組み込んだ、町内・関東圏から愛好家が集まる「アーバンスポーツのまち」を象徴する大会を開催		
目的	町内外から「アーバンスポーツのまち」と認知されるきっかけの創出 町内外からの交流人口増加		
計測指標	大会・イベント参加者数 観戦者数		
ステークホルダーと役割			
生涯学習課 大会コンセプトの検討 商工観光課、観光協会 賑わいイベントの協力 イベント事業者 大会誘致・開催運営 PR事業者 大会・賑わいのプロモーション			
次年度以降 取り組む内容	2025年度	2026年度	2027年度
	分科会の開催 アーバンスポーツ施設の新設に伴う、こけら落としイベントの開催 次年度以降に開催する大会・イベントのコンテンツ協議	アーバンスポーツ施設を会場とした、BMXを主としつつも複数種目が楽しめる大会／イベントの開催	前年度開催した大会／イベントの継続開催（収益性の改善）
	収益・コスト 収益：大会参加費、物品販売 コスト：会場費、大会運営費、プロモーション費		

施策

■ 誰もが様々なスポーツを楽しむことができるような、「アーバンスポーツのまち」を象徴する複数種目を誰もが楽しめる大会を開催
<対象競技>

- MTB、BMX
- スケートボード
- 3×3バスケット



■ スポーツに無関心な町内外の方々にも楽しめるような、アーバンスポーツと親和性の高い施策を実施し、賑わいを創出
<イベント内容・タイミング例>

- 体験会等の開催によりイベントの体験価値向上に寄与
- ファッションや音楽、食と融合させた賑わい（スポーツイベント）の開催
- 大多喜お城まつりなどの町内イベントと連携したイベント実施



アーバンスポーツをきっかけとした地域産業振興に資する連携を図り、 「アーバンスポーツのまち」としての関係人口増や事業推進に係る資金確保を目指します

アクション【6】地域産業との連携促進

施策概要	・ 大多喜町で担い手不足の産業とその課題を特定し、解決に向けアスリートとの人材連携を促進 ・ アーバンスポーツを活用し、町内事業者との新規事業や取り組みを組成		
目的	・ 町内事業者との連携による地域産業振興への寄与		
計測指標	・ スポーツ関連人材の兼業を受け入れ可能な町内事業者数 ・ アーバンスポーツを絡めた新規事業の創出数		
ステークホルダーと役割			
・ 生涯学習課 事業所管 ・ 商工観光課・商工会 町内事業者のニーズ把握 ・ アーバンスポーツ団体 町内事業者での就業に関心があるスポーツ関連人材の確保			
次年度以降 取り組む内容	2025年度		
	・ 分科会の開催 ・ 人材不足に悩む町内事業者への現状・ニーズヒアリング ・ スポーツ関連人材と町内事業者のマッチングに向けた要件整理		
	2026年度		
	・ スポーツ関連人材と町内事業者のマッチング手法の策定 ・ 上記マッチングの実現に向けた事業者の洗い出し／調整		
2027年度			
・ マッチングのモデルケース実行／モニタリング ・ モデルケースの横展開に向けた事業者の洗い出し／調整 ・ 新規事業開発の対象事業者選定、支援内容すり合わせ			

施策	
< 人材連携 > ■ 大多喜町内において、担い手不足に悩む事業者を抽出し、町内スポーツ関連人材とのマッチングを図るプラットフォーム化を目指し、課題解決へ寄与 ※アクション【3】競技者のキャリア支援における人材不足に悩む企業の抽出を目的とする < STEP > ① 商工会と連携した事業者ヒアリングを実施し、担い手不足に悩む事業者と担い手が担う業務領域について整理する ② スポーツ関連人材の意向調査を行い、キャリア支援が必要な人材に対して、町内事業者とのマッチングを図る ③ 取り組み事例の継続的な創出により、スポーツ選手やセカンドキャリア形成を目指す人材としての移住の促進を図る < 新規事業開発 > ■ 町内事業者との新規事業・新規取組の組成を行い、地域振興とプロモーションの両軸を推進 < 新たな取り組み例 > ・ ふるさと納税返礼品の開発 ・ 飲食店によるアーバンスポーツコラボメニューの開発 ・ 商品等への「アーバンスポーツのまち」記載 ・ 既存町内ショップでのアーバンスポーツグッズの販売等	

町内に点在する各観光拠点を回れるモデルコースの策定と町内における休憩スポット整備により、町内周遊の促進を目指します

アクション【7】周遊促進コンテンツの組成

施策概要	・アーバンスポーツを活用し、町内観光資源等の周遊を促進させるコースの設計		
目的	・町内産業の活性化 ・来町者の滞在時間増加、経済効果向上		
計測指標	・周遊コースの利用者数		
ステークホルダーと役割			
・生涯学習課 本アクションに関する全体方針検討 ・商工観光課、わくわくカンパニー大多喜 各エリアの周遊スポット洗い出し、休憩スポット候補事業者への調整 ・大多喜学園 サイクリング環境に関する助言 ・観光協会 周遊プランの展開			
次年度以降 取り組む内容	2025年度		
	・町内に存在する観光資源や自然が楽しめるスポットの整理 （デスクトップ調査及び観光協会やDMO、サイクリングに詳しい方／団体へのヒアリングによって行う想定）		
	2026年度		
	・前年度に整理した情報を踏まえてコースの設計 ・休憩スポット設定に向けた町内場所・施設への調整 ・周遊マップの制作・町内への展開		
2027年度			・活用状況のモニタリング ・必要に応じて、活用促進に資する企画の実施

施策		
■ 主に自転車（BMX・MTB）で、町内の魅力スポットや里山を周遊できるモデルコースを展開		
魅力スポットの 顕在化  町内の主な 観光スポット  自然を感じら れるスポット	情報反映  既存の大多喜情報マップも 活用しつつ、作成 情報反映	休憩スポットの 設定  荷物預かりや着替え 場所、トイレ等を提供 できる場所・施設 レンタルサイクル提供スポットも 設定できるよう、調整予定
■ サイクルロゲイニング※企画等を定期的開催し、サイクリストからの関心を集めるきっかけを作る他、参加者からの発信によるPR効果も創出 ※サイクルロゲイニング：自転車で、各地に設けられたチェックポイントを制限時間内に周り、ゴールするでの獲得ポイントを競う野外スポーツ		
収益・コスト	※周遊コースが展開されることで、町内産業まで経済効果が波及することが期待される	

施策

- 主に自転車（BMX・MTB）で、町内の魅力スポットや里山を周遊できるモデルコースを展開

魅力スポットの顕在化



町内の主な観光スポット



自然を感じられるスポット



情報反映

既存の大多喜情報マップも活用しつつ、作成

情報反映

休憩スポットの設定



荷物預かりや着替え場所、トイレ等を提供できる場所・施設

レンタルサイクル提供スポットも設定できるよう、調整予定

- サイクルロゲイニング※企画等を定期的に行い、サイクリストからの関心を集めるきっかけを作る他、参加者からの発信によるPR効果も創出

※サイクルロゲイニング：自転車、各地に設けられたチェックポイントを制限時間内に周り、ゴールするまでの獲得ポイントを競う野外スポーツ

収益・コスト

※周遊コースが展開されることで、町内産業まで経済効果が波及することが期待される

町民とアーバンスポーツの接点増加を目的に、町内イベントや町民の生活エリアにおけるPRによって、「アーバンスポーツのまち」としての認知度向上に努めます

アクション【8】町内に向けたPR

施策概要	・ 大多喜町のアーバンスポーツ推進のシンボルとして、町内の集まりや活動でも利用可能なロゴや等を制作し、町内外に向けて発信		
目的	・ 町内におけるアーバンスポーツの取り組みへの認知度向上		
計測指標	・ 町民認知度 (計測が難しい場合は、町内パンプトラックの町民利用者数)		
ステークホルダーと役割			
・ 生涯学習課 施設に関する全体方針検討 ・ コンテンツ制作事業者 PRコンテンツのデザイン・制作 ・ 観光協会 PRコンテンツの作成及び町内展開の協力 ・ 町内施設（図書館、公民館、観光協会、いすみ鉄道駅舎、オリブ等） 制作物の設置協力			
次年度以降 取り組む内容	2025年度	2026年度	2027年度
	・ ロゴ・アイコンの制作（著作権獲得） ・ チラシやポスターの制作および町内施設への掲出 ・ 本事業用サイトの立ち上げ	・ 大会／イベントに係る周知 ・ 町広報誌での定期的な情報発信	・ 大会／イベントに係る周知 ・ 町広報誌での定期的な情報発信

施策	
■ 町内のイベントや各発信媒体で活用可能な、大多喜町におけるアーバンスポーツへの取り組みや事業内容が認識できるPRコンテンツを作成する ＜PRコンテンツ案＞ ➢ 町職員名刺や特産品パッケージ等に掲載可能なロゴデザインの作成 ➢ 町内の自然を生かしたアーバンスポーツの楽しみ方がイメージできるポスターの作成 ➢ 町広報誌やフリーペーパー等での町内におけるアーバンスポーツの取り組み事例や事業の紹介	
ロゴ／アイコン	広報誌
	
収益・コスト	・ 収益：特になし ・ コスト：デザイン費、制作費

町外に向けて「アーバンスポーツのまち」としての認知度向上に向けたコンテンツを制作し、町内の魅力とともに発信を行います

アクション【9】町外に向けたPR

施策概要	・「アーバンスポーツのまち」及び大多喜町の魅力を町外へPRするためのコンテンツを生み出し、SNSを中心として発信	施策 ■ プロモーション案①～⑤を参考に実施内容を検討。将来的には、町民や本事業への参画者が自発的に発信する仕組みを構築する < プロモーション案 > ① トップ選手らによる町のプロモーションビデオの作成・発信 ② 大多喜町アーバンスポーツ推進計画の内容をアーバンスポーツのPR媒体等で発信 ③ 町長らによるアーバンスポーツへのチャレンジと発信 ④ SNSによる「アーバンスポーツのまち」コンテンツの発信 ⑤ 近隣都市圏の交通機関や町内産業や観光地からの魅力発信 PV  町内外の若者が自発的に拡散したくなるPRコンテンツ制作 SNS  各種SNS媒体で情報発信 外部媒体連携  アーバンスポーツのPR媒体を活用した情報発信		
目的	・「アーバンスポーツのまち」としての町外からの認知拡大 ・アーバンスポーツをきっかけとした大多喜町の魅力発信	収益・コスト コスト：プロモーションコンテンツ製作・発信費用		
計測指標	・PRコンテンツの閲覧数	2025年度 2026年度 2027年度 次年度以降 取り組む内容 ・町内に向けたPR（前頁）にて制作したチラシ・ポスターを、町外近隣施設やアーバンスポーツ競技者が閲覧する場所・媒体で掲載 ・町民参加型のSNS動画コンテストの開催（既に実施されている大多喜町動画コンテストの方法を基にした企画を設計予定） ・上記コンテストにおける受賞動画の発信 ・大会／イベントに係る周知		

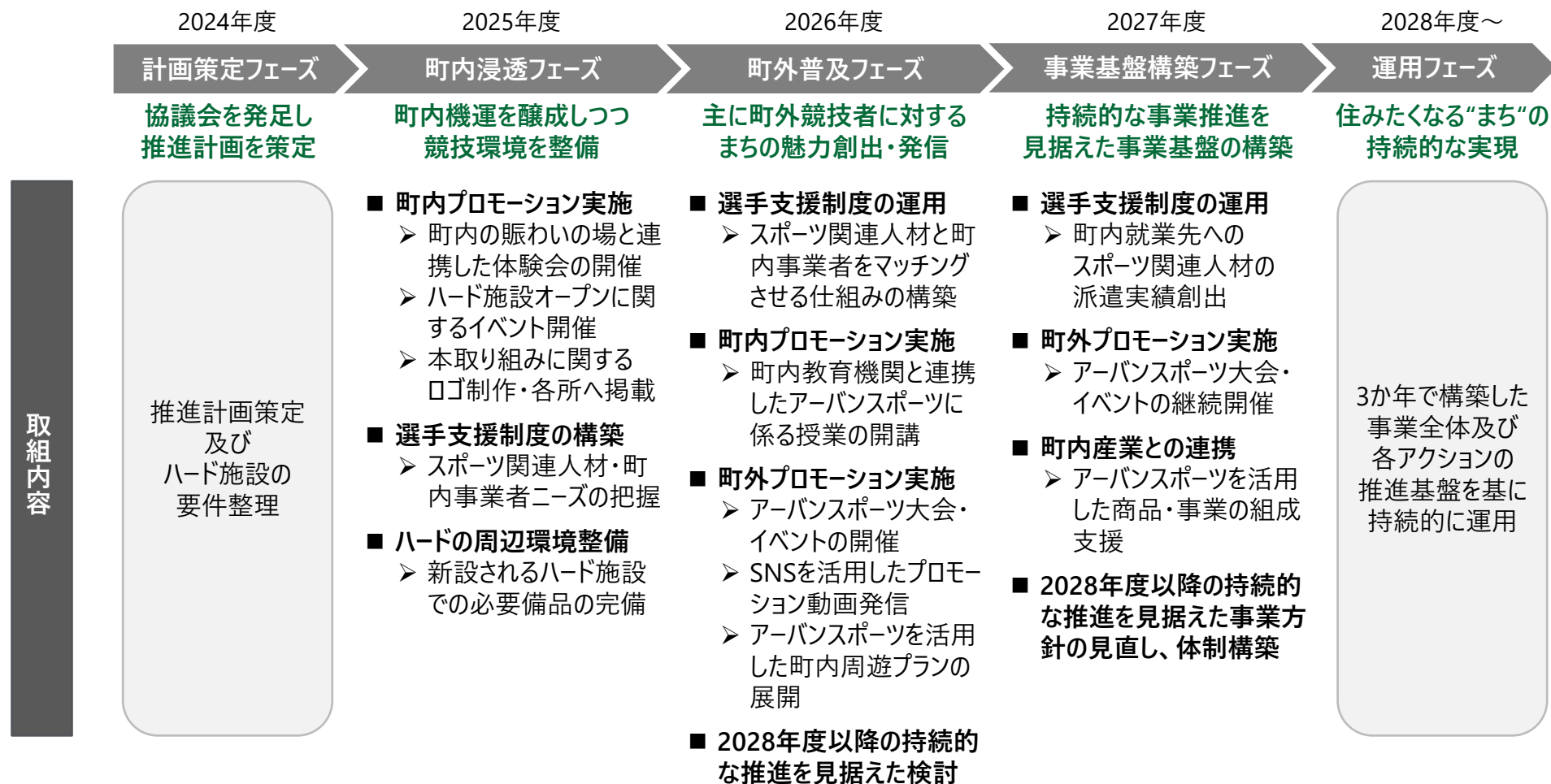
6. 2025年度以降の取り組みについて

6-1. 今後の計画・展望

まずは町内浸透を行った後に町外への普及に取り組み、アーバンスポーツのまちとしての認知度を獲得していきながら、持続的な推進ができるような事業基盤を構築します

本事業の今後の取り組み内容

▼ ハード施設完成予定



ハード整備と町内への普及を進めた上で、本町独自の取組を行うことで、 全国から「アーバンスポーツのまち」として大多喜町が認知されることを目指します

「アーバンスポーツのまち」実現に向けた今後の展望

認知の範囲

